



Cisco MobilityManager アドミニストレーション ガイド

Release 1.1

Text Part Number: OL-7886-01-J



このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。見当たらない場合には、代理店にご連絡ください。

シスコが採用している TCP ヘッダー圧縮機能は、UNIX オペレーティングシステムの UCB (University of California, Berkeley) パブリックドメインバージョンとして、UCB が開発したプログラムを最適化したものです。All rights reserved.Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、すべてのマニュアルおよび上記各社のソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよび上記各社は、商品性や特定の目的への適合性、権利を侵害しないことに関する、または取り扱い、使用、または取り引きによって発生する、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその代理店は、このマニュアルの使用またはこのマニュアルを使用できないことによって起こる制約、利益の損失、データの損傷など間接的で偶発的に起こる特殊な損害のあらゆる可能性がシスコまたは代理店に知らされていても、それらに対する責任を一切負いかねます。

CCSP、CCVP、Cisco Square Bridge のロゴ、Follow Me Browsing、および StackWise は、Cisco Systems, Inc. の商標です。Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn、および iQuick Study は、Cisco Systems, Inc. のサービスマークです。Access Registrar、Aironet、ASIST、BPX、Catalyst、CCDA、CCDP、CCIE、CCIP、CCNA、CCNP、Cisco、Cisco Certified Internetwork Expert のロゴ、Cisco IOS、Cisco Press、Cisco Systems、Cisco Systems Capital、Cisco Systems のロゴ、Cisco Unity、Empowering the Internet Generation、Enterprise/Solver、EtherChannel、EtherFast、EtherSwitch、Fast Step、FormShare、GigaDrive、GigaStack、HomeLink、Internet Quotient、IOS、IP/TV、iQ Expertise、iQ のロゴ、iQ Net Readiness Scorecard、LightStream、Linksys、MeetingPlace、MGX、Networkers のロゴ、Networking Academy、Network Registrar、Packet、PIX、Post-Routing、Pre-Routing、ProConnect、RateMUX、ScriptShare、SlideCast、SMARTnet、StrataView Plus、TeleRouter、The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient、および TransPath は、米国および一部の国における Cisco Systems, Inc. とその関連会社の登録商標です。

このマニュアルまたは Web サイトで言及されているその他の商標はすべて、それぞれの所有者のもです。「パートナー」という語の使用は、シスコと他社の提携関係を意味するものではありません。(0502R)

Cisco MobilityManager アドミニストレーションガイド

Copyright © 2005 Cisco Systems, Inc.

All rights reserved.



このマニュアルについて	ix
目的	x
対象読者	x
マニュアルの構成	x
関連マニュアル	xi
Cisco MobilityManager	xi
Cisco CallManager	xi
その他	xi
表記法	xii
技術情報の入手方法	xiv
Cisco.com	xiv
Product Documentation DVD (英語版)	xiv
マニュアルの発注方法 (英語版)	xv
シスコシステムズマニュアルセンター	xv
シスコ製品のセキュリティの概要	xvi
シスコ製品のセキュリティ問題の報告	xvi
テクニカル サポート	xviii
Cisco Technical Support & Documentation Web サイト	xviii
Japan TAC Web サイト	xix
サービス リクエストの発行	xix
サービス リクエストのシビラティの定義	xx

その他の資料および情報の入手方法 xxi

CHAPTER 1

Cisco MobilityManager の概要 1-1

定義 1-2

Cisco MobilityManager ソリューション 1-3

主な機能とメリット 1-4

使用例 1-6

 使用上の制限事項 1-6

Cisco CallManager および関連デバイスやサービスとの互換性
1-8

管理 Web インターフェイス 1-9

 Web ブラウザ 1-9

 Cisco MobilityManager Administration での Internet
 Explorer の使用 1-10

 Cisco MobilityManager Administration での Netscape の使
 用 1-12

追加情報の参照先 1-13

CHAPTER 2

使用する前に 2-1

Cisco MobilityManager 管理へのアクセス 2-2

 管理アプリケーションのナビゲート 2-2

 管理者パスワードの管理 2-3

CallManager のリンクの設定 2-4

 新しい共用回線ユーザ リンクの追加 2-5

 既存の共用回線ユーザ リンク レコードの検索 2-6

 共用回線ユーザ リンクの削除 2-8

 新しい発信ポート ユーザ リンクの追加 2-9

 既存の発信ポート ユーザ リンク レコードの検索 2-10

発信ポート ユーザ リンクの削除	2-12
ユーザ アカウントの設定	2-13
Mobile Connect のパラメータ	2-13
Mobile Voice Access	2-14
新しいユーザ アカウントの追加	2-14
既存のエンド ユーザ アカウントの検索	2-16
既存ユーザの新しい着信グループの追加	2-17
既存ユーザの新しいライン アピアランスの追加	2-18
新しいリモート宛先の追加	2-20
ユーザのライン アピアランスとリモート宛先のパラメータの 入力	2-21
Mobile Connect の設定	2-22
携帯電話タイマーの設定	2-23
既存のユーザ アカウントのアップデート	2-24
既存のユーザ アカウントの削除	2-25
グループ レコードのアップデート	2-26
グループ レコードの削除	2-27
ライン アピアランスのアップデート	2-27
ライン アピアランスの削除	2-28
リモート宛先のアップデート	2-29
リモート宛先の削除	2-30

CHAPTER 3

システムの設定 3-1

システム パラメータの設定	3-2
Mobile Connect の設定	3-4
携帯電話ピックアップの設定	3-5
携帯電話タイマーの設定	3-6

JTAPI ファイルの自動アップデートに関する設定	3-7
Mobile Voice Access の設定	3-9
Cisco CallManager AXL サーバの設定	3-10
データ同期のイネーブル化	3-12
データベースのバックアップと復元	3-13
ディレクトリ ユーザの設定	3-14

CHAPTER 4

サービサビリティの設定	4-1
アラーム情報の表示	4-2
測定情報の表示	4-4
測定情報の解釈	4-5
ログレベルの設定	4-7
Cisco MobilityManager サービスのステータスの表示	4-8

CHAPTER 5

ファイルのエクスポート	5-1
アラーム レコードのエクスポート	5-2
測定情報のエクスポート	5-3
呼詳細レコードのエクスポート	5-4
ログ ファイルのエクスポート	5-5

CHAPTER 6

プラットフォームの管理	6-1
Cisco IPT Platform Administration Web ページの使用方法	6-2
ログイン	6-3
Show Status	6-3
プラットフォーム ステータス	6-4
ハードウェア ステータス	6-5
Settings	6-6

IP の設定	6-6
ホストの設定	6-7
NTP の設定	6-8
PING ユーティリティ	6-11
Software Upgrade の各種ウィンドウ	6-11
From Local Source	6-12
From Remote Source	6-13
Show Current Version	6-14
Check Component Info	6-15
システムの電源オフまたはリブート	6-16
Switch Versions and Reboot	6-16
Reboot Current Version	6-17
Poweroff System	6-17
Cisco IPT Platform Administration コマンドライン インターフェイス	6-18
CLI セッションの開始	6-19
CLI の基本	6-21
コマンドの補完	6-21
コマンドのヘルプの取得	6-21
CLI セッションの終了	6-22
Cisco IPT Platform CLI コマンド リスト	6-23



このマニュアルについて

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法、そして関連資料の入手方法について説明します。

この章は、次の内容で構成されています。

- [目的 \(P. x\)](#)
- [対象読者 \(P. x\)](#)
- [マニュアルの構成 \(P. x\)](#)
- [関連マニュアル \(P. xi\)](#)
- [表記法 \(P. xii\)](#)
- [技術情報の入手方法 \(P. xiv\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(P. xvi\)](#)
- [テクニカル サポート \(P. xviii\)](#)
- [その他の資料および情報の入手方法 \(P. xxi\)](#)

目的

『Cisco MobilityManager アドミニストレーションガイド』では、Cisco MobilityManager Web インターフェイスを使用して Cisco MobilityManager を管理する手順について説明します。

対象読者

『Cisco MobilityManager アドミニストレーションガイド』は、Cisco MobilityManager の管理を担当するネットワーク管理者を対象としています。このマニュアルでは、Cisco CallManager の管理手順およびテレフォニーと IP ネットワーキングテクノロジーに関する実用的な知識が必要です。

マニュアルの構成

このマニュアルは、次の章で構成されています。

章番号	説明
第 1 章「Cisco MobilityManager の概要」	Cisco MobilityManager ソリューションの機能と利点、および管理 Web インターフェイスにアクセスする方法を説明します。
第 2 章「使用する前に」	システムをセットアップして Cisco MobilityManager を使用する方法およびユーザアカウントの追加方法を説明します。
第 3 章「システムの設定」	コールハンドリングのために Cisco MobilityManager のパラメータをセットアップする方法を説明します。
第 4 章「サービサビリティの設定」	アラーム情報、測定情報、およびデバッグ情報の表示方法を説明します。
第 5 章「ファイルのエクスポート」	システム情報およびコール情報の保存方法とエクスポート方法を説明します。
第 6 章「プラットフォームの管理」	IPT Platform Administration Web ページを使用して、Cisco MobilityManager サーバプラットフォームを管理する方法を説明します。

関連マニュアル

関連する Cisco IP テレフォニー アプリケーションと製品の詳細については、次のマニュアルを参照してください。

Cisco MobilityManager

以下の Cisco MobilityManager のマニュアルは、次の URL からアクセスできます。
http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm

- *Cisco MobilityManager Quick Start Guide*
- *Cisco MobilityManager Installation Guide*
- *Cisco MobilityManager User Guide*
- *Release Notes for Cisco MobilityManager*

Cisco CallManager

以下の Cisco CallManager のマニュアルは、次の URL からアクセスできます。
http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/c_callmg/index.htm

- *Installing Cisco CallManager Release 4.1(3)*
- *Upgrading Cisco CallManager Release 4.1(3)*
- *Release Notes for Cisco CallManager Release 4.1(3)*
- *Cisco CallManager System Guide*
- *Cisco CallManager Administration Guide*
- *Cisco CallManager Serviceability Administration Guide*
- *Cisco CallManager Serviceability System Guide*
- *Cisco CallManager Features and Services Guide*
- *Troubleshooting Guide for Cisco CallManager*
- *Bulk Administration Tool Guide for Cisco CallManager*
- *Cisco CallManager Compatibility Matrix*

その他

以下の Cisco IP Telephony のマニュアルは、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/univercd/cc/td/doc/product/voice/backup/index.htm>

- *Cisco IP Telephony Backup and Restore System (BARS) Administration Guide*
- *Cisco IP Telephony Solution Reference Network Design Guide*

表記法

このマニュアルは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは、太字で示しています。
イタリック体	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体で示していません。
[]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x y z }	必ずどれか1つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[x y z]	どれか1つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
ストリング	引用符を付けない一組の文字。ストリングの前には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めてストリングとみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、イタリック体の screen フォントで示しています。
→	例の中で重要なテキストを強調しています。
^	^記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコで囲んで示しています。

(注)は、次のように表しています。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイントアドバイスは、次のように表しています。



ワンポイント・アドバイス

時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント

便利なヒントです。

注意は、次のように表しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



警告

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。装置の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止策をとるよう努めてください。

技術情報の入手方法

シスコの製品マニュアルやその他の資料は、Cisco.com でご利用いただけます。また、テクニカル サポートおよびその他のリソースを、さまざまな方法で入手することができます。ここでは、シスコ製品に関する技術情報を入手する方法について説明します。

Cisco.com

次の URL から、シスコ製品の最新資料を入手することができます。

<http://www.cisco.com/techsupport>

シスコの Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com>

また、シスコの Web サイトの各国語版へは、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml

シスコ製品の最新資料の日本語版は、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp>

Product Documentation DVD (英語版)

シスコ製品のマニュアルおよびその他の資料は、製品に付属の Product Documentation DVD パッケージでご利用いただけます。Product Documentation DVD は定期的に更新されるので、印刷資料よりも新しい情報が得られます。

Product Documentation DVD は、技術情報を包含する製品マニュアルをポータブルなメディアに格納した、包括的なライブラリです。この DVD を使用することにより、シスコ製の各ハードウェアやソフトウェアのインストール、コンフィギュレーション、およびコマンドに関する複数のバージョンのマニュアルにアクセスし、技術情報を HTML で参照できます。また、この DVD を使用すると、シスコの Web サイトで参照できるのと同じマニュアルに、インターネットに接続せずにアクセスできます。一部の製品については、PDF 版のマニュアルもご利用いただけます。

Product Documentation DVD は、1 回単位で入手することも、または定期購読することもできます。Cisco.com 登録ユーザ（Cisco Direct Customers）の場合、Cisco Marketplace から Cisco Documentation DVD（Product Number DOC-DOCDVD=）を発注できます。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

マニュアルの発注方法（英語版）

2005 年 6 月 30 日以降、Cisco.com 登録ユーザの場合、Cisco Marketplace の Product Documentation Store からシスコ製品の英文マニュアルを発注できるようになっています。次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

Cisco.com に登録されていない場合、製品を購入された代理店へお問い合わせください。

シスコシステムズマニュアルセンター

シスコシステムズマニュアルセンターでは、シスコ製品の日本語マニュアルの最新版を PDF 形式で公開しています。また、日本語マニュアル、および日本語マニュアル CD-ROM もオンラインで発注可能です。ご希望の方は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

また、シスコシステムズマニュアルセンターでは、日本語マニュアル中の誤記、誤植に関するコメントをお受けしています。次の URL の「製品マニュアル内容不良報告」をクリックすると、コメント入力画面が表示されます。

<http://www2.hipri.com/cisco/>

なお、技術内容に関するお問い合わせは、この Web サイトではお受けできませんので、製品を購入された各代理店へお問い合わせください。

シスコ製品のセキュリティの概要

シスコでは、オンラインの Security Vulnerability Policy ポータル（英文のみ）を無料で提供しています。URL は次のとおりです。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このサイトは、次の目的に利用できます。

- シスコ製品のセキュリティ脆弱性を報告する。
- シスコ製品に伴うセキュリティ事象についてサポートを受ける。
- シスコからセキュリティ情報を受け取るための登録をする。

シスコ製品に関するセキュリティ勧告および注意事項の最新のリストには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/go/psirt>

勧告および注意事項がアップデートされた時点でリアルタイムに確認する場合は、次の URL から Product Security Incident Response Team Really Simple Syndication (PSIRT RSS) フィードにアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_psirt_rss_feed.html

シスコ製品のセキュリティ問題の報告

シスコでは、セキュアな製品を提供すべく全力を尽くしています。製品のリリース前には内部でテストを行い、すべての脆弱性を早急に修正するよう努力しています。万一、シスコ製品に脆弱性が見つかった場合は、PSIRT にご連絡ください。

- 緊急の場合：security-alert@cisco.com（英語のみ）
緊急とは、システムがアクティブな攻撃を受けている場合、または至急の対応を要する重大なセキュリティ上の脆弱性が報告されている場合を指します。これに該当しない場合はすべて、緊急でないと思なされます。
- 緊急でない場合：psirt@cisco.com（英語のみ）

緊急の場合は、電話で PSIRT に連絡することもできます。

- 1 877 228-7302（英語のみ）
- 1 408 525-6532（英語のみ）

**ヒント**

シスコに機密情報をお送りいただく際には、PGP (Pretty Good Privacy) または互換製品を使用して、暗号化することをお勧めします。PSIRT は、PGP バージョン 2.x から 8.x と互換性のある暗号化情報に対応しています。

無効になった、または有効期限が切れた暗号鍵は、絶対に使用しないでください。PSIRT に連絡する際に使用する正しい公開鍵には、Security Vulnerability Policy ページの Contact Summary セクションからリンクできます。次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/en/US/products/products_security_vulnerability_policy.html

このページ上のリンクからは、現在使用されている最新の PGP 鍵の ID にアクセスできます。

テクニカル サポート

Cisco Technical Support では、24 時間テクニカル サポートを提供しています。Cisco.com の Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、多数のサポート リソースをオンラインで提供しています。また、シスコと正式なサービス契約を交わしているお客様には、Cisco Technical Assistance Center (TAC) のエンジニアが電話でのサポートにも対応します。シスコと正式なサービス契約を交わしていない場合は、代理店にお問い合わせください。

Cisco Technical Support & Documentation Web サイト

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトでは、シスコ製品やシスコの技術に関するトラブルシューティングにお役立ていただけるように、オンラインでマニュアルやツールを提供しています。この Web サイトは、24 時間、いつでも利用可能です。URL は次のとおりです。

<http://www.cisco.com/techsupport>

Cisco Technical Support & Documentation Web サイトのツールにアクセスするには、Cisco.com のユーザ ID とパスワードが必要です。サービス契約が有効で、ユーザ ID またはパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://tools.cisco.com/RPF/register/register.do>



(注)

Web または電話でサービス リクエストを発行する前に、Cisco Product Identification (CPI) ツールを使用して製品のシリアル番号を確認してください。CPI ツールには、Cisco Technical Support & Documentation Web サイトから、Documentation & Tools の下の **Tools & Resources** リンクをクリックするとアクセスできます。アルファベット順の索引ドロップダウン リストから **Cisco Product Identification Tool** を選択するか、Alerts & RMAs の下の **Cisco Product Identification Tool** リンクをクリックします。CPI ツールには、3 つの検索オプションがあります。製品 ID またはモデル名による検索、ツリー表示による検索、show コマンド出力のコピー アンドペーストによる特定製品の検索です。検索結果では、製品が図示され、シリアル番号ラベルの位置が強調表示されます。ご使用の製品でシリアル番号ラベルを確認し、その情報を記録してからサービス コールをかけてください。

Japan TAC Web サイト

Japan TAC Web サイトでは、利用頻度の高い TAC Web サイト (<http://www.cisco.com/tac>) のドキュメントを日本語で提供しています。Japan TAC Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

サポート契約を結んでいない方は、「ゲスト」としてご登録いただくだけで、Japan TAC Web サイトのドキュメントにアクセスできます。Japan TAC Web サイトにアクセスするには、Cisco.com のログイン ID とパスワードが必要です。ログイン ID とパスワードを取得していない場合は、次の URL にアクセスして登録手続きを行ってください。

<http://www.cisco.com/jp/register>

サービス リクエストの発行

オンラインの TAC Service Request Tool を使用すると、S3 と S4 のサービス リクエストを短時間でオープンできます (S3 : ネットワークに軽微な障害が発生した、S4 : 製品情報が必要である)。状況を入力すると、その状況を解決するための推奨手段が検索されます。これらの推奨手段で問題を解決できない場合は、シスコのエンジニアが対応します。TAC Service Request Tool には、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

S1 または S2 のサービス リクエストの場合、またはインターネットにアクセスできない場合は、Cisco TAC に電話でお問い合わせください (S1 : ネットワークがダウンした、S2 : ネットワークの機能が著しく低下した)。S1 および S2 のサービス リクエストには、シスコのエンジニアがすぐに割り当てられ、業務を円滑に継続できるようサポートします。

Cisco TAC の連絡先については、次の URL を参照してください。

<http://www.cisco.com/techsupport/contacts>

サービス リクエストのシビラティの定義

シスコでは、報告されるサービス リクエストを標準化するために、シビラティを定義しています。

シビラティ 1 (S1): ネットワークが「ダウン」した状態か、業務に致命的な損害が発生した場合。お客様およびシスコが、24 時間体制でこの問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 2 (S2): 既存のネットワーク動作が著しく低下したか、シスコ製品が十分に機能しないため、業務に重大な影響を及ぼした場合。お客様およびシスコが、通常の業務中の全時間を費やして、この問題を解決する必要があると判断した場合。

シビラティ 3 (S3): ネットワークの動作パフォーマンスが低下しているが、ほとんどの業務運用は継続できる場合。お客様およびシスコが、業務時間中にサービスを十分なレベルにまで復旧させる必要があると判断した場合。

シビラティ 4 (S4): シスコ製品の機能、インストレーション、コンフィギュレーションについて、情報または支援が必要な場合。業務の運用には、ほとんど影響がありません。

その他の資料および情報の入手方法

シスコの製品、テクノロジー、およびネットワーク ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインおよび印刷物で入手できます。

- Cisco Marketplace では、シスコの書籍やリファレンス ガイド、マニュアル、ロゴ製品を数多く提供しています。購入を希望される場合は、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/marketplace/>

- Cisco Press では、ネットワーク全般、トレーニング、および認定資格に関する出版物を幅広く発行しています。これらの出版物は、初級者にも上級者にも役立ちます。Cisco Press の最新の出版情報などについては、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.ciscopress.com>

- 『Packet』はシスコシステムズが発行する技術者向けの雑誌で、インターネットやネットワークへの投資を最大限に活用するために役立ちます。本誌は季刊誌として発行され、業界の最先端トレンド、最新テクノロジー、シスコ製品やソリューション情報が記載されています。また、ネットワーク構成およびトラブルシューティングに関するヒント、コンフィギュレーション例、カスタマー ケース スタディ、認定情報とトレーニング情報、および充実したオンライン サービスへのリンクの内容が含まれます。『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/packet>

日本語版『Packet』は、米国版『Packet』と日本版のオリジナル記事で構成されています。日本語版『Packet』には、次の URL からアクセスしてください。<http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/news/packet/>

- 『iQ Magazine』はシスコシステムズの季刊誌で、成長企業が収益を上げ、業務を効率化し、サービスを拡大するためには技術をどのように利用したらよいかを学べるように構成されています。本誌では、事例とビジネス戦略を挙げて、成長企業が直面する問題とそれを解決するための技術を紹介し、読者が技術への投資に関して適切な決定を下せるよう配慮しています。『iQ Magazine』には、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/go/iqmagazine>

デジタル版には、次の URL からアクセスできます。

<http://ciscoiq.texterity.com/ciscoiq/sample/>

- 『*Internet Protocol Journal*』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『*Internet Protocol Journal*』には、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/ipj>
- シスコシステムズが提供するネットワーキング製品、および各種のカスタマー サポート サービスは、次の URL から入手できます。
<http://www.cisco.com/en/US/products/index.html>
- Networking Professionals Connection は対話形式の Web サイトです。このサイトでは、ネットワーキング製品やテクノロジーに関する質問、提案、および情報をネットワーキング担当者がシスコの専門家や他のネットワーキング担当者と共に共有できます。次の URL にアクセスしてディスカッションに参加してください。
<http://www.cisco.com/discuss/networking>
- シスコは、国際的なレベルのネットワーク関連トレーニングを実施しています。最新情報については、次の URL からアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/en/US/learning/index.html>



Cisco MobilityManager の概要

この章では、Cisco MobilityManager について説明します。次の項があります。

- [Cisco MobilityManager ソリューション \(P.1-3\)](#)
- [主な機能とメリット \(P.1-4\)](#)
- [使用例 \(P.1-6\)](#)
- [Cisco CallManager および関連デバイスやサービスとの互換性 \(P.1-8\)](#)
- [管理 Web インターフェイス \(P.1-9\)](#)
- [追加情報の参照先 \(P.1-13\)](#)

定義

表 1-1 に、このガイドで使用される重要用語の定義を示します。

表 1-1 用語と定義

用語	定義
発信者番号	リモート宛先からコールが実行されたときに受信側の電話機のディスプレイに表示される電話番号。
グループ	ユーザの電話回線の集合とリモート宛先を結合するレコード。グループ ID で識別されます。現時点では、1 ユーザにつき 1 グループを追加できます。
ライン アピアランス	ユーザが使用するデスクの電話回線または内線。回線番号で識別されます。現時点では、1 ユーザにつき 1 ライン アピアランスを追加できます。
Mobile Connect	1 つの電話番号を使用してビジネス コールを管理し、デスクの電話と携帯電話で進行中のコールをピックアップできる機能の集合。Mobile Connect 機能は、Cisco MobilityManager によってサポートされます。
Mobile Voice Access	Mobile Connect コールを発信するため、および Mobile Connect 機能を有効または無効にするために使用される Integrated Voice Response(IVR; 統合音声応答)システム。
リモート宛先	Mobile Connect での応答とピックアップに使用できる携帯電話。また、Mobile Voice Access にアクセスするために使用されるその他の電話。
ユーザ プロファイル	ユーザ アカウントを定義するレコードの集合。Mobile Voice Access ユーザ ID で識別されます。グループ、ライン アピアランス、およびリモート宛先は、ユーザ プロファイルの要素です。

Cisco MobilityManager ソリューション

Cisco MobilityManager は、Cisco CallManager、Unity、およびその他の IP 通信アプリケーションと連動して Mobile Connect 機能を提供するエンタープライズアプリケーション サーバです。Mobile Connect とは、デスクの電話または携帯電話で着信コールに应答する機能、接続を失うことなく進行中のコールをデスクの電話または携帯電話でピックアップする機能、携帯電話からビジネス コールを発信する機能などが含まれた機能の集合です。

Cisco MobilityManager は Cisco CallManager と連動して、企業のデスクの IP 電話と携帯電話などのリモート電話の間のコール ルーティングおよびデバイス モビリティを制御します。Cisco MobilityManager は、互換性のあるシスコ サーバ上のソフトウェア アプリケーションとして提供されます。Web インターフェイスが用意されており、管理アクセス、およびユーザによる個人プロファイルの管理に使用できます。

Cisco MobilityManager は Cisco AVVID の構成要素で、Public Service Telephone Network (PSTN)、WAN、LAN、および無線 LAN といった企業インフラストラクチャと互換性があります。

完全な Cisco MobilityManager ソリューションを実装するには、次のコンポーネントが必要です。

- 音声対応の IP ネットワーク。これには、LAN および PSTN 音声ゲートウェイが含まれます。
- 企業向け CPE 対応の IP テレフォニーおよび管理システム。これには、Cisco CallManager、Cisco Unity ボイスメール アプリケーション、および Cisco IP Phone 79xx シリーズが含まれます。
- Cisco MobilityManager。
- 既存の携帯電話デバイスおよびその他のリモート電話エンドポイント。



(注)

既存の携帯電話を Cisco MobilityManager と連動させることができます。電話機や携帯電話ネットワークに変更を加える必要はありません。Code Division Multiple Access (CDMA) 方式および Global System for Mobile Communications (GSM) 方式の携帯電話は、Cisco MobilityManager と互換性があります。

関連項目

- [主な機能とメリット \(P.1-4\)](#)
- [使用例 \(P.1-6\)](#)
- [管理 Web インターフェイス \(P.1-9\)](#)
- [追加情報の参照先 \(P.1-13\)](#)

主な機能とメリット

Cisco MobilityManager は、企業の電話通信および携帯電話通信の管理における柔軟性を高め、次のメリットを提供します。

- デスク電話の同時呼び出し：着信コールがあると、IP 電話の内線と指定の携帯電話で同時に呼び出し音が鳴ります。ユーザが電話に応答すると、応答しなかった回線の呼び出し音は自動的に停止します。ユーザは、コールが着信するたびに都合の良いデバイスを選択できます。
- デスク電話のコール ピックアップ：ユーザは、コール進行中に接続を失うことなく、デスクの電話と携帯電話を切り替えることができます。その時々ニーズに応じて、社内の有線電話の信頼性と携帯電話の機動性を活用できます。
- 企業のボイス メールボックスの統合：1 つに統合されたボイス メールボックスで、デスクのデバイスまたは設定済みのリモート デバイスへのコールを含むすべてのビジネス コールに対応できます。着信コールの発信者は、いつも決まった方法で従業員と連絡を取ることができ、ユーザは、複数のボイスメール システムを確認する時間を短縮できます。
- システム リモート アクセス：ユーザは、携帯電話がローカルの IP PBX 内線電話であるかのように、携帯電話からコールを発信できます。ユーザが発信したコールは、ローカルの音声ゲートウェイおよび WAN トランキングを利用でき、企業は従業員のコール発信を追跡できます。
- Allowed Caller フィルタおよび Blocked Caller フィルタ：ユーザは、指定のリモート宛先の呼び出し音を鳴らす着信コールの発信者の集合を制限できます (Allowed Caller フィルタ)。また、リモート宛先の呼び出し音を鳴らさない着信コールの発信者の集合も制限できます (Blocked Caller フィルタ)。
- 発信者番号：すべてのコールについて発信者番号が保存され、表示されます。ユーザは、本来の IP 電話機能を損なうことなく Mobile Connect を利用できます。

- リモートのオン / オフ制御：ユーザは、Mobile Voice Access を使用して携帯電話から、またはユーザ設定ページから、モビリティ機能をオンまたはオフにできます。この操作により、モビリティの管理を柔軟に行うことができます。
- コールトレース：Mobile Connect コールが詳細に記録されます。企業がリンクの使用状況を最適化し、接続の問題をデバッグするために役立つ情報が提供されます。
- Mobile Connect コールのセキュリティとプライバシー：Mobile Connect コールがアクティブである間、関連付けられたデスクの IP 電話は保護されます。携帯電話の接続がアクティブになるとすぐに、デスクの電話からはコールにアクセスできなくなります。このため、携帯電話に渡されたコールが不正な人物に聞き取られる可能性が排除されます。

関連項目

- [Cisco MobilityManager ソリューション \(P.1-3\)](#)
- [使用例 \(P.1-6\)](#)
- [管理 Web インターフェイス \(P.1-9\)](#)
- [追加情報の参照先 \(P.1-13\)](#)

使用例

Cisco MobilityManager では、次の使用方法がサポートされます。

- デスクの電話または携帯電話で外部コールを受信する：外部の発信者がユーザのデスクの内線電話番号にダイヤルします。デスクの電話および携帯電話の呼び出し音が同時に鳴ります。ユーザがいずれかの電話で応答すると、もう一方の電話は停止します。デスクの電話で応答した場合、ユーザはコール中に接続を失うことなく、デスクの電話から携帯電話に切り替えることができます。切り替えは、着信コールと発信コールの両方に対してサポートされています。
- 携帯電話からデスクの電話に戻す：デスクの電話で発信または応答を開始し、その後携帯電話に切り替えた場合、そのコールをデスクの電話に戻すことができます。
- 携帯電話などのリモート電話からモビリティ コールを発信する：ユーザは Mobile Voice Access を使用して、デスクの電話からダイヤルしているかのように携帯電話からコールを発信できます。
- 携帯電話で発信したコールの進行中に携帯電話からデスクの電話に切り替える：ユーザが Mobile Voice Access を使用して携帯電話からコールを発信した場合、コール中に接続を失うことなくデスクの電話に切り替えることができます。また、必要に応じて携帯電話に戻すこともできます。

関連項目

- [Cisco MobilityManager ソリューション \(P.1-3\)](#)
- [主な機能とメリット \(P.1-4\)](#)
- [管理 Web インターフェイス \(P.1-9\)](#)
- [追加情報の参照先 \(P.1-13\)](#)

使用上の制限事項

Cisco MobilityManager は、設定されたライン アピアランス (内線) ごとに、一度に最大 1 つのコールを管理するように設計されています。この項では、いくつかのコール シナリオに基づいて、システムの応答を説明します。ここでは、内線「A」、「B」、および「C」が使用されます。各シナリオにおいて、内線 A には Mobile Connect サービスおよび Mobile Voice Access が設定されており、携帯電話はリモート宛先として設定されています。

シナリオ 1

B が A にコールするとき、A はアイドル状態です。A は携帯電話でコールをピックアップできます。

シナリオ 2

A が C にコールします。このコールの進行中に、B が A にコールします。A はデスクの電話でそのコールに应答します。A は携帯電話で C のコールをピックアップできますが、Mobile Connect サービスが C のコールに使用されているため、B のコールを携帯電話でピックアップすることはできません。

シナリオ 3

B が A にコールします。A は携帯電話でこのコールをピックアップします。このコールの進行中に、C が A にコールします。A はデスクの電話でそのコールに应答します。A が B のコールを終了し、C とのコールを継続しています。Mobile Connect サービスは、A に対する次の着信コールが使用できる状態です。

シナリオ 4

B が A にコールします。A は携帯電話でこのコールをピックアップします。このコールの進行中に、C が A にコールします。A はデスクの電話でそのコールに应答します。A は C のコールを終了し、B とのコールを継続しています。B のコールがまだ Mobile Connect サービスを使用しているため、B のコールが終了するまで、他のコールはこのサービスを使用できません。

シナリオ 5

A は Mobile Voice Access コールを発信するために携帯電話を使用します。このコールの進行中に、C が A の内線にコールします。このコールは携帯電話に拡大されません。C のコールが着信したとき、A は Mobile Voice Access を使用していたためです。A が Mobile Voice Access コールを終了した後は、Mobile Connect サービスを次の着信コールに適用できます。

Cisco CallManager および関連デバイスやサービスとの互換性

Cisco MobilityManager は、Cisco CallManager と連動します。ここで示す機能を除いて、Cisco CallManager の標準機能のほとんどは、Cisco MobilityManager および関連デバイスやサービスとの互換性があります。

- Mobile Connect 機能を使用するには、まず、Cisco CallManager の Auto Call Pickup 機能をディセーブルにする必要があります。
- Cisco CallManager Forced Authorization Code and Client Matter Code(FAC/CMC) 機能は、Mobile Voice Access と連動しません。JAVA Telephony Programming Interface (JTAPI) は、FAC/CMC に必要なイベントをサポートしていません。
- Cisco MobilityManager がさまざまなタイプのコーデックをサポートするには、Cisco CallManager でトランスコードが共用ライン CTI ポート用に設定されている必要があります。
- Mobile Connect は、Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) と連動しません。コールが MLPP でプリエンブション処理された場合、Mobile Connect 機能はそのコールに対して無効になります。
- Mobile Connect サービスは、ビデオ コールには適用されません。デスクの電話で受信したビデオ コールを携帯電話でピックアップすることはできません。
- リモート宛先は、Time Division Multiplex (TDM; 時分割多重) デバイスである必要があります。IP 電話をリモート宛先として Cisco CallManager クラスタ内に設定することはできません。
- Mobile Connect サービスは、共用回線 CTI ユーザと同じパーティション内の Directory Number (DN; ディレクトリ番号) に対してのみ使用可能です。異なる 2 つのパーティションで同じ DN が使用された場合、サービスは、共用回線 CTI ユーザと同じパーティション内の DN にも適用されません。
- CDR Analysis and Reporting (CAR) サポートは、Cisco MobilityManager では使用できません。
- H.323 ゲートウェイは、Cisco CallManager のフェールオーバーをサポートしません。プライマリ Cisco CallManager が何らかの理由でアウト オブ サービスになり、セカンダリが代わりにサービスを実行した場合、進行中の Mobile Connect コールはドロップされます。

- 複数のユーザが同じ内線電話番号を使用する場合、Line Appearances ページに設定されるパラメータは、最新のアップデートに対応します。内線が複数のユーザによって共有されているかどうかにかかわらず、内線ごとに 1 つのパラメータ セットだけが Cisco MobilityManager に保存されます。
- Mobile Voice Access を使用して Meet-Me にアクセスすることはできません。
- Cisco MobilityManager は、QSIG (Q Signaling) パスの交換をサポートしていません。
- 発信コール用に CTI ポートを設定するときは、CTI ポートのメディア リソース グループに Music-On-Hold (MOH) サーバが含まれていないことを確認してください。

管理 Web インターフェイス

この項では、PC 上で実行されている Web ブラウザから Cisco MobilityManager 管理アプリケーションにアクセスする方法を説明します。

- [Cisco MobilityManager ソリューション \(P.1-3 \)](#)
- [Web ブラウザ \(P.1-9 \)](#)
- [Cisco MobilityManager Administration での Internet Explorer の使用 \(P.1-10 \)](#)

Web ブラウザ

Cisco MobilityManager 管理アプリケーションは、次の Microsoft Windows オペレーティング システム ブラウザをサポートします。

- Microsoft Internet Explorer、バージョン 6.0 以降
- Netscape Navigator バージョン 7.2 以降

管理インターフェイスには、ネットワーク内の任意の PC からアクセスできます。ログインの詳細については、[P.2-2 の「Cisco MobilityManager 管理へのアクセス」](#)を参照してください。

関連項目

- [Cisco MobilityManager ソリューション \(P.1-3 \)](#)
- [Cisco MobilityManager Administration での Internet Explorer の使用 \(P.1-10 \)](#)
- [Cisco MobilityManager Administration での Netscape の使用 \(P.1-12 \)](#)

Cisco MobilityManager Administration での Internet Explorer の使用

Certificate Authority (CA; 認証局) ルート証明書を trusted フォルダに保存できません。保存すると、Web アプリケーションにアクセスするたびに Security Alert ダイアログボックスが表示されることを回避できます。管理者またはユーザが Cisco MobilityManager Administration に初めてアクセスすると、サーバを信頼するかどうかを確認する Security Alert ダイアログが表示されます。次のオプションのいずれかを選択する必要があります。

- 現在の Web セッションのためだけに証明書を信頼するには、**Yes** をクリックします。現在のセッションのためだけに証明書を信頼した場合、証明書を trusted フォルダにインストールしない限り、アプリケーションにアクセスするたびに Security Alert ダイアログボックスが開きます。
- 証明書インストール タスクを実行するには、**View Certificate > Install Certificate** を選択します。証明書を trusted フォルダにインストールすると、Web アプリケーションにアクセスするたびに Security Alert ダイアログボックスが表示されることを回避できます。
- 操作をキャンセルするには、**No** をクリックします。認証が行われなため、Web アプリケーションにアクセスすることはできません。

セキュリティ証明書を保存するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco MobilityManager Administration Web ページを表示します ([P.2-2 の「Cisco MobilityManager 管理へのアクセス」](#) を参照) 。
 - ステップ 2** Security Alert ダイアログボックスが表示されたら、**View Certificate** をクリックします。
 - ステップ 3** Certificate ペインで、**Install Certificate** をクリックします。

ステップ 4 Next をクリックします。

ステップ 5 **Place all certificates in the following store** オプション ボタンをクリックしてから、**Browse** をクリックします。

ステップ 6 **Trusted Root Certification Authorities** を見つけます。

ステップ 7 Next をクリックします。

ステップ 8 **Finish** をクリックします。

ステップ 9 **Yes** をクリックして証明書をインストールします。

インポートが成功したことを示すメッセージが表示されます。

ステップ 10 **OK** をクリックします。

ステップ 11 ダイアログボックスの右下にある **OK** をクリックします。

ステップ 12 今後ダイアログボックスが表示されないように証明書を信頼するには、**Yes** をクリックします。



(注) HTTPS をサポートするアプリケーションにアクセスするための URL で localhost、IP アドレス、または hostname を使用している場合、各タイプの URL (ローカルホストが使用された URL、IP アドレスが使用された URL など) の証明書を trusted フォルダに保存する必要があります。そのようにしないと、Security Alert ダイアログボックスがタイプごとに表示されます。

関連項目

- [Cisco MobilityManager ソリューション \(P.1-3\)](#)
- [Cisco MobilityManager Administration での Netscape の使用 \(P.1-12\)](#)

Cisco MobilityManager Administration での Netscape の使用

Netscape を使用して、証明書のクレデンシャルを表示すること、1 回のセッションのために証明書を信頼すること、有効期限切れになるまで証明書を信頼すること、証明書を信頼しないことができます。



ヒント

1 回のセッションのためだけに証明書を信頼する場合、HTTPS 対応のアプリケーションにアクセスするたびに次の手順を繰り返す必要があります。証明書を信頼しない場合は、アプリケーションにアクセスできません。

証明書を trusted フォルダに保存するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Netscape でアプリケーションにアクセスします。
- ステップ 2** New Site Certificate ウィンドウが表示されたら、**Next** をクリックします。
- ステップ 3** 次の New Site Certificate ウィンドウが表示されたら、**Next** をクリックします。



ヒント

Next をクリックする前に証明書のクレデンシャルを表示するには、**More Info** をクリックします。クレデンシャルを確認し、**OK** をクリックします。その後、New Site Certificate ウィンドウの **Next** をクリックします。

- ステップ 4** 次のいずれかのオプション ボタンをクリックします。
 - Accept this certificate for this session
 - Do not accept this certificate and do not connect
 - Accept this certificate forever (until it expires)

- ステップ 5** **Next** をクリックします。

- ステップ 6** Do not accept this certificate... オプション ボタンをクリックした場合は、[ステップ 8](#)に進みます。
- ステップ 7** 他のサイトに情報を送信する前に Netscape によって警告が表示されるようにするには、**Warn me before I send information to this site** チェックボックスをオンにしてから、**Next** をクリックします。
- ステップ 8** **Finish** をクリックします。
-

関連項目

- [Cisco MobilityManager ソリューション \(P.1-3\)](#)
- [Cisco MobilityManager Administration での Internet Explorer の使用 \(P.1-10\)](#)

追加情報の参照先

Cisco MobilityManager および Cisco CallManager にアクセスする Web インターフェイスの追加情報については、次の文書を参照してください。

- *Cisco CallManager System Guide*
- *Cisco IP Telephony Solution Reference Network Design Guide*
- *Cisco MobilityManager Installation Guide*

■ 追加情報の参照先



使用する前に

この章では、Cisco MobilityManager を使用するためのシステムの設定方法およびユーザ アカウントの追加方法について説明します。この章の手順を実行する前に、次の作業を完了する必要があります。

1. 『Cisco MobilityManager Installation Guide』の手順に従って、Cisco MobilityManager アプリケーションをインストールします。
2. 『Cisco MobilityManager Installation Guide』の手順に従って、Mobile Connect 機能がサポートされるように Cisco CallManager を設定します。
3. P.1-9 の「[管理 Web インターフェイス](#)」で、Web ブラウザ、HTTPS、およびセキュリティ証明書についての情報を確認します。

Cisco MobilityManager の管理を開始するには、この章の次のトピックを参照してください。

- [Cisco MobilityManager 管理へのアクセス \(P.2-2\)](#)
- [CallManager のリンクの設定 \(P.2-4\)](#)
- [ユーザ アカウントの設定 \(P.2-13\)](#)

Cisco MobilityManager 管理へのアクセス

サポートされている Web ブラウザから、次の手順を実行して Cisco MobilityManager 管理アプリケーションを開きます。ブラウザ要件については、P.1-9 の「[管理 Web インターフェイス](#)」を参照してください。

手順

ステップ 1 サポートされているバージョンの Internet Explorer または Netscape を起動します。

ステップ 2 Web ブラウザのアドレス バーに、次の URL を入力します。

`http://<Mobility Server>:8080/cmmadmin`

<Mobility Server> には、サーバの名前または IP アドレスを入力します。

Certificate Authority (CA; 認証局) ルート証明書をローカル コンピュータに保存していない場合は、Security Alert ダイアログボックスが表示されます。Yes をクリックして現在のセッションのために証明書を信頼するか、P.1-10 の「[Cisco MobilityManager Administration での Internet Explorer の使用](#)」または P.1-12 の「[Cisco MobilityManager Administration での Netscape の使用](#)」の手順に従って証明書をダウンロードし、保存します。

ステップ 3 管理者の ID とパスワードでログインします。デフォルトの ID は CMMAdmin で、デフォルトのパスワードは ciscocisco です。

管理アプリケーションのナビゲート

Cisco MobilityManager 管理アプリケーションの上部にあるメニューを使用して、個々の設定ウィンドウにナビゲートします。一部のウィンドウでは、右上隅に Related Links プルダウン リスト ボックスがあるものもあります。関連リンクを使用すると、ネストされた一連のメニューのトップウィンドウに戻ります。

Cisco MobilityManager の初期画面の右上隅にあるプルダウン リスト ボックスには、IPT プラットフォーム管理ページを開くオプションがあります。IPT プラットフォームのページの使用方法に関する詳細については、IPT Platform オンラインヘルプシステムを参照してください。

関連項目

- [管理 Web インターフェイス \(P.1-9\)](#)
- [CallManager のリンクの設定 \(P.2-4\)](#)
- [ユーザ アカウントの設定 \(P.2-13\)](#)

管理者パスワードの管理

Cisco MobilityManager 管理アプリケーションへのアクセスに必要なパスワードを変更するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** System > Administrator Password Management を選択します。
 - ステップ 2** Password フィールドに、新しいパスワードを入力します。パスワードの長さは、6 ~ 30 文字にする必要があります。使用する文字の種類に制約はありません。
 - ステップ 3** Confirm Password フィールドに、パスワードを再入力します。
 - ステップ 4** Save をクリックします。
-

関連項目

- [Cisco MobilityManager 管理へのアクセス \(P.2-2\)](#)
- [管理アプリケーションのナビゲート \(P.2-2\)](#)

CallManager のリンクの設定

この項では、Cisco MobilityManager で共用回線および発信ポート リnkを設定する方法を説明します。共用回線ユーザ リnkは、Cisco MobilityManager と、すべての共用回線を制御するためにインストール中に設定された Cisco CallManager の CTI ユーザとの間のリンクです。発信ポート ユーザ リnkは、Cisco MobilityManager と、すべての発信コール CTI ポートを制御するためにインストール中に設定された Cisco CallManager の CTI ユーザとの間のリンクです。

これらのリンクは、Cisco CallManager との接続を補完し、Mobile Connect 機能をサポートするために必要です。



(注)

Cisco CallManager の Forced Authorization Code および Client Matter Code(FAC/CMC) 機能は、Mobile Voice Access コールと連動しません。JTAPI は、FAC/CMC に必要なイベントをサポートしていません。

Mobile Connect 機能をサポートするには、この項の説明に従って共用回線および発信ポートのリンクを設定する前に、Cisco CallManager で次の手順を実行しておく必要があります。『Cisco MobilityManager Installation Guide』の次の項を参照してください。

1. 「Setting Parameters for the Mobile Connect Service」
2. 「Creating a Partition for the Route Point」
3. 「Creating the Calling Search Space」
4. 「Creating a Pool of CTI Ports for Outgoing Calls」
5. 「Creating a CTI Port for the Shared Line」
6. 「Creating a Route Point」
7. 「Creating Cisco MobilityManager CTI Users」

これらの手順を完了したら、次の作業を実行して Cisco CallManager のリンクを設定します。

1. [新しい共用回線ユーザ リnkの追加 \(P.2-5\)](#)
2. [新しい発信ポート ユーザ リnkの追加 \(P.2-9\)](#)



(注) 共用回線ユーザリンクは、発信ポートユーザリンクを設定する前に設定する必要があります。

新しい共用回線ユーザリンクの追加

インストール中に共用回線として設定した Cisco CallManager で、Cisco MobilityManager と CTI ユーザの間のリンクを作成する必要があります。詳細については、『*Cisco MobilityManager Installation Guide*』を参照してください。

Cisco MobilityManager から Cisco CallManager の新しい共用回線ユーザリンクを追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco MobilityManager 管理ウィンドウから、**System > CallManager Links > Shared Line User Links** を選択します。
- ステップ 2** **Add New** をクリックします。

Shared Line User Links Configuration ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** 新しいリンクの一意の名前を **Name** フィールドに入力します。50 文字まで入力できます。
- ステップ 4** **Primary CTI Manager IP Address** フィールドに、CTI マネージャが実行されている Cisco CallManager の IP アドレスを入力します。
- ステップ 5** セカンダリ CTI マネージャが設定されている場合は、その IP アドレスをオプションの **Secondary CTI Manager IP Address** フィールドに入力します。

■ CallManager のリンクの設定

- ステップ 6** CTI Provider In Service Timer フィールドについては、デフォルト設定の 6,000 ミリ秒のままにしておくことをお勧めします。この値は、Cisco MobilityManager と Cisco CallManager の間の通信リンクのタイミングを制御するもので、これら 2 つのシステム間の接続に問題がある場合に限り変更する必要があります。値の範囲は、1,000 ~ 11,000 ミリ秒です。
- ステップ 7** Shared Line CTI User フィールドに、Cisco CallManager で定義した CTI ユーザの ID を正確に入力します。50 文字まで入力できます。詳細については、『*Cisco MobilityManager Installation Guide*』で CTI ユーザの作成についての項を参照してください。
- ステップ 8** Shared Line CTI User Password フィールドに、Cisco CallManager で割り当てられているとおりに CTI ユーザのパスワードを入力し、そのパスワードを確認します。50 文字まで入力できます。
- ステップ 9** Save をクリックします。

関連項目

- [新しい共用回線ユーザリンクの追加 \(P.2-5\)](#)
- [共用回線ユーザリンクの削除 \(P.2-8\)](#)

既存の共用回線ユーザリンクレコードの検索

既存の共用回線ユーザリンクレコードを検索するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco MobilityManager 管理ウィンドウから、**System > Call Manager Link > Shared Line User Links** を選択します。

Find and List Cisco CTI Manager Shared Line User Links ウィンドウが開きます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with
- contains
- ends with
- is exactly
- is empty
- is not empty

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。1 ページあたりの表示項目数を指定することもできます。



(注)

データベースにあるすべての一致レコードを検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。完了した直後に検索の絞り込みを行うには、**Find** をクリックする前に、**Search Within Results** を選択します。

ステップ 4 レコードのリストで、検索基準に一致する項目をクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

関連項目

- [新しい共用回線ユーザ リンクの追加 \(P.2-5\)](#)
- [共用回線ユーザ リンクの削除 \(P.2-8\)](#)

共用回線ユーザ リンクの削除

共用回線ユーザ リンクを削除するには、次の手順を実行します。



共用回線ユーザ リンクを修正することはできません。変更するには、既存のリンクを削除してから新しいリンクを追加する必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco MobilityManager 管理ウィンドウから、**System > CallManager Links > Shared Line User Links** を選択します。

削除するユーザ リンクを検索します。P.2-5 の「[新しい共用回線ユーザ リンクの追加](#)」を参照してください。

ステップ 2 次のいずれかの方法でレコードを削除します。

レコードのリストで実行する場合

- a. チェックボックスを使用して特定のレコードを選択するか、**Select All** をクリックしてすべてのレコードを選択します。
- b. **Delete Selected** をクリックします。
- c. **OK** をクリックして確定します。

開いているレコードで実行する場合

- a. **Delete** をクリックします。
- b. **OK** をクリックして確定します。

関連項目

- [新しい共用回線ユーザ リンクの追加 \(P.2-5\)](#)
- [新しい共用回線ユーザ リンクの追加 \(P.2-5\)](#)

新しい発信ポート ユーザ リンクの追加

インストール中に発信ポートとして設定した Cisco CallManager で、Cisco MobilityManager と CTI ユーザの間のリンクを追加する必要があります。詳細については、『Cisco MobilityManager Installation Guide』を参照してください。

新しい発信ポート ユーザ リンクを追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco MobilityManager 管理ウィンドウから、**System > CallManager Links > Outgoing Port User Links** を選択します。
- ステップ 2** **Add New** をクリックします。

Outgoing Port User Links Configuration ウィンドウが開きます。
- ステップ 3** 新しいリンクの一意の名前を **Name** フィールドに入力します。50 文字まで入力できます。
- ステップ 4** **Primary CTI Manager IP Address** フィールドに、CTI マネージャが実行されている Cisco CallManager の IP アドレスを入力します。
- ステップ 5** セカンダリ CTI マネージャが設定されている場合は、その IP アドレスをオプションの **Secondary CTI Manager IP Address** フィールドに入力します。
- ステップ 6** **CTI Provider In Service Timer** フィールドについては、デフォルト設定の 6,000 ミリ秒のままにしておくことをお勧めします。この値は、Cisco MobilityManager と Cisco CallManager との間の接続に問題がある場合に限り変更する必要があります。値の範囲は、1,000 ~ 11,000 ミリ秒です。
- ステップ 7** **Outgoing Port CTI User** フィールドに、Cisco CallManager で定義した CTI ユーザの ID を入力します。



(注) ユーザ ID は、Cisco CallManager で設定されている ID と正確に同じである必要があります。詳細については、『Cisco MobilityManager Installation Guide』で CTI ユーザの追加に関する項を参照してください。

ステップ 8 CTI ユーザのパスワードを、Cisco CallManager で割り当てられているとおりに入力し、そのパスワードを確認します。50 文字まで入力できます。

ステップ 9 Save をクリックします。

関連項目

- [既存の発信ポート ユーザ リンク レコードの検索 \(P.2-10\)](#)
- [発信ポート ユーザ リンクの削除 \(P.2-12\)](#)

既存の発信ポート ユーザ リンク レコードの検索

既存の発信ポート ユーザ リンクを検索するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco MobilityManager 管理ウィンドウから、**System > Call Manager Link > Outgoing Port User Links** を選択します。

Find and List Cisco CTI Manager Outgoing Port User Links ウィンドウが開きます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with
- contains
- ends with
- is exactly
- is empty
- is not empty

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。



データベースにあるすべての一致レコードを検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。完了した直後に検索の絞り込みを行うには、**Find** をクリックする前に、**Search Within Results** を選択します。

ステップ 4 レコードのリストで、検索基準に一致する項目をクリックします。

ステップ 5 選択した項目がウィンドウに表示されます。

Find and List ウィンドウでは、該当する項目の横にあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックすることで、複数のリンクを削除できます。

一致レコードのタイトル バーにあるチェックボックスをオンにし、**Delete Selected** をクリックすることで、ウィンドウ内のすべての項目を選択できます。

関連項目

- [新しい発信ポート ユーザ リンクの追加 \(P.2-9\)](#)
- [発信ポート ユーザ リンクの削除 \(P.2-12\)](#)

発信ポート ユーザ リンクの削除

発信ポート ユーザ リンクを削除するには、次の手順を実行します。



(注) 発信ポート ユーザ リンクを修正することはできません。変更する場合は、既存のリンクを削除してから新しいリンクを追加する必要があります。

手順

ステップ 1 Cisco MobilityManager 管理ウィンドウから、**System > CallManager Links > Outgoing Port User Links** を選択します。

削除するユーザ リンクを検索します。P.2-5 の「[新しい共用回線ユーザ リンクの追加](#)」を参照してください。

ステップ 2 次のいずれかの方法でレコードを削除します。

レコードのリストで実行する場合

- チェックボックスを使用して特定のレコードを選択するか、**Select All** をクリックしてすべてのレコードを選択します。
- Delete Selected** をクリックします。
- OK** をクリックして確定します。

開いているレコードで実行する場合

- Delete** をクリックします。
- OK** をクリックして確定します。

関連項目

- [既存の発信ポート ユーザ リンク レコードの検索 \(P.2-10\)](#)
- [新しい発信ポート ユーザ リンクの追加 \(P.2-9\)](#)

ユーザアカウントの設定

ユーザの Mobile Connect プロファイルは、次の要素で構成されます。

- ユーザアカウント。ユーザのすべての Mobile Connect 情報が保存されます。このアカウントは、Mobile Voice Access ユーザ ID で識別されます。
- グループ。ユーザの電話回線の集合とリモート宛先を結合します。
- ライン アピアランス。ユーザのデスクの電話回線または内線です。
- リモート宛先。Mobile Connect での応答とピックアップに使用できる携帯電話や、Mobile Voice Access に到達するために使用されるその他の電話などです。

ユーザアカウントを設定するには、次の作業を実行します。

1. [新しいユーザアカウントの追加 \(P.2-14\)](#)
2. [既存ユーザの新しい着信グループの追加 \(P.2-17\)](#)
3. [既存ユーザの新しいライン アピアランスの追加 \(P.2-18\)](#)
4. [新しいリモート宛先の追加 \(P.2-20\)](#)

Mobile Connect のパラメータ

Mobile Connect のパラメータの多くは、システム レベルでも、個別ユーザ レベルでも定義できます。ユーザに対して個別にパラメータを定義する場合は、次のルールが適用されます。

- ユーザに対して個別に定義したパラメータにより、システム レベルで定義した同一パラメータは無効になります。システム レベルの値を維持するには、<system default> オプションを選択します。ユーザ個別の値を定義するには、Enable オプションを選択します。パラメータを無視するには、Disable オプションを選択します。システム レベルのパラメータの説明については、[P.3-2 の「システムパラメータの設定」](#)を参照してください。
- ユーザ個別のパラメータは、管理者が管理アプリケーションの User Information ウィンドウで定義することも、ユーザが User Web ページで定義することもできます。定義が管理アプリケーションで実行されたか、User ページで実行されたかにかかわらず、最後に実行されたユーザレベルの変更が適用されます。User ページの詳細については、『Cisco MobilityManager User Guide』を参照してください。

■ ユーザアカウントの設定

関連項目

- システムパラメータの設定
- 新しいユーザアカウントの追加

Mobile Voice Access

Mobile Voice Access を使用することにより、ユーザはリモートデバイスからコールを発信するときに Mobile Connect 機能にアクセスできます。リモートデバイスからコールを発信するには、ユーザはリモートデバイスからこのアプリケーションにダイヤルし、Mobile Voice Access ユーザ ID を入力します。その後、ユーザは Cisco CallManager で割り当てられている PIN の入力を求められます。認証後、ユーザは社内のデスクの電話からコールを発信する場合に使用できるものと同じモビリティ機能を使用してコールを発信できます。

関連項目

- 新しいユーザアカウントの追加

新しいユーザアカウントの追加

新しいユーザアカウントを追加するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco MobilityManager 管理ウィンドウから、**User > User Information** を選択します。
 - ステップ 2** **Add New** をクリックします。
 - ステップ 3** Mobile Voice Access User ID フィールドに、ユーザが Mobile Voice Access 用に使用する識別番号を入力します。50 桁まで入力できます。
 - ステップ 4** Cisco CallManager User ID フィールドに、Cisco CallManager で設定されているユーザ ID を正確に入力します。50 文字まで入力できます。

ステップ 5 Device Name フィールドに、Cisco CallManager でユーザに対して設定されているデバイス名を正確に入力します。50 文字まで入力できます。

ステップ 6 Enable User Remote Access フィールドで、**yes** を選択して Mobile Voice Access の使用をユーザに許可します。Mobile Voice Access の使用をユーザに許可しない場合は、**no** を選択します。



(注) ユーザが Mobile Voice Access を使用できるためには、このフィールドに **yes** が設定されていて、System Parameters Configuration ウィンドウの Enable System Remote Access フィールドにも **yes** が設定されている必要があります。[P.3-9 の「Mobile Voice Access の設定」](#)を参照してください。

ステップ 7 Maximum Number of Groups Allowed および Maximum Number of Line Appearances Allowed については、デフォルト設定の 1 を変更しないでください。

ステップ 8 ユーザに作成を許可する最大リモート宛先数を入力します。宛先数の範囲は 1 ~ 4 個です。

ステップ 9 Maximum Number of Allowed Caller Filters Allowed フィールドを使用して、着信コールがあったときに指定のリモート宛先の呼び出し音を鳴らす電話番号を保持するフィルタの数を制限します。フィルタは 4 個まで定義できます。フィルタの定義を許可しない場合は、**0** を入力します。

ステップ 10 Maximum Number of Blocked Caller Filters Allowed フィールドを使用して、着信コールがあっても指定のリモート宛先の呼び出し音を鳴らさない発信者番号を保持するフィルタの数を制限します。フィルタは 4 個まで定義できます。フィルタの定義を許可しない場合は、**0** を入力します。

ステップ 11 Save をクリックします。

ユーザ アカウントが保存され、ウィンドウが再び開きます。このウィンドウには、新しい Mobile Connect グループを追加するためのリンクが表示されます。[P.2-17 の「既存ユーザの新しい着信グループの追加」](#)を参照してください。

関連項目

- [既存ユーザの新しい着信グループの追加](#)
- [既存のエンド ユーザ アカウントの検索](#)
- [既存ユーザの新しいライン アピアランスの追加](#)
- [新しいリモート宛先の追加](#)

既存のエンド ユーザ アカウントの検索

既存のエンド ユーザ アカウントを検索するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco MobilityManager 管理ウィンドウから、**User > User Information** を選択します。

Cisco Find and List Cisco Mobile Connect Users ウィンドウが開きます。

ステップ 2 検索のベースとして、**Mobile Voice Access User ID** または **Cisco CallManager User ID** を選択します。

ステップ 3 ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with
- contains
- ends with
- is exactly
- is empty
- is not empty

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。1 ページあたりの表示項目数を指定することもできます。



(注) データベースにあるすべての一致レコードを検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。完了した直後に検索の絞り込みを行うには、**Find** をクリックする前に、**Search Within Results** を選択します。

ステップ 5 下線が引かれたリンクをクリックして目的のレコードを開きます。

選択したレコードがウィンドウに表示されます。

関連項目

- [新しいユーザアカウントの追加](#)
- [既存ユーザの新しい着信グループの追加](#)
- [既存ユーザの新しいライン アピアランスの追加](#)
- [新しいリモート宛先の追加](#)

既存ユーザの新しい着信グループの追加

グループは、ユーザの電話回線の集合とリモート宛先を結合するものです。既存のユーザの新しい着信グループを追加するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 既存のユーザレコードを検索 (P.2-16 の「[既存のエンドユーザアカウントの検索](#)」) するか、新しいユーザアカウントを追加 (P.2-14 の「[新しいユーザアカウントの追加](#)」) した後、下線が引かれたリンクをクリックします。

ウィンドウが再び開き、新しい関連グループを追加するためのリンクが表示されます。

ステップ 2 **Add New** をクリックします。

■ ユーザアカウントの設定

ステップ 3 Group Identification フィールドに、数値 ID を入力します。50 桁まで入力できます。

ステップ 4 必要に応じて説明を入力します。50 文字まで入力できます。

ステップ 5 Save をクリックします。

情報が保存され、ウィンドウが再び開きます。このウィンドウには、新しいライン アピアランスとリモート宛先を追加するためのリンクが表示されます。

関連項目

- [新しいユーザ アカウントの追加](#)
- [既存のエンド ユーザ アカウントの検索](#)
- [既存ユーザの新しいライン アピアランスの追加](#)
- [新しいリモート宛先の追加](#)

既存ユーザの新しいライン アピアランスの追加

ライン アピアランスは、ユーザのデスクの電話回線または内線です。

既存のユーザの新しいライン アピアランスを追加するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 ユーザ アカウントを検索します (P.2-16 の「[既存のエンド ユーザ アカウントの検索](#)」)。

ステップ 2 新しいグループを追加 (P.2-17 の「[既存ユーザの新しい着信グループの追加](#)」) するか、既存のグループのリンクをクリックします。

ウィンドウが再び開き、新しいライン アピアランスとリモート宛先を追加するためのリンクが表示されます。

ステップ 3 Add New Line Appearances をクリックします。

ステップ 4 Line Number フィールドに、回線の電話番号または内線番号を入力します。フィールドには 20 文字まで入力できます。各文字には、0 ~ 9 または A ~ D を使用できます。

ステップ 5 新しいライン アピアランスは、自動的にシステム レベルの Mobile Connect の設定を継承します。必要に応じて、[表 2-1](#) の説明に従って値を修正します。

ステップ 6 必要に応じて、Maximum Wait Time for Cellular Phone Pickup のデフォルト値を変更します。この設定は、携帯電話からデスクの電話に切り替えられるコールに適用されます。デスクの電話がピックアップされる前に待機時間が終了した場合は、コールが切断されます。範囲は 5,000 ~ 60,000 ミリ秒で、デフォルトは 10,000 ミリ秒です。

ステップ 7 オプションの Enable Cellular Phone Pickup フィールドで、携帯電話上の着信コールのピックアップを許可するために Mobile Connect 機能をイネーブルにするかどうかを選択します。デフォルトは、システム レベルのデフォルトです。

ステップ 8 Save をクリックします。

情報が保存され、ウィンドウが再び開きます。このウィンドウには、新しいライン アピアランスとリモート宛先を追加するためのリンクが表示されます。

関連項目

- [新しいユーザアカウントの追加](#)
- [既存のエンドユーザアカウントの検索](#)
- [既存ユーザの新しい着信グループの追加](#)
- [新しいリモート宛先の追加](#)
- [ユーザのラインアピアランスとリモート宛先のパラメータの入力](#)

新しいリモート宛先の追加

既存のユーザの新しいリモート宛先（携帯電話番号など、リモートの電話番号）を追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** ユーザアカウントを検索します（[P.2-16](#)の「[既存のエンドユーザアカウントの検索](#)」）。
- ステップ 2** 新しいグループを追加（[P.2-17](#)の「[既存ユーザの新しい着信グループの追加](#)」）するか、既存のグループのリンクをクリックします。

ウィンドウが再び開き、新しいライン アピランスとリモート宛先を追加するためのリンクが表示されます。
- ステップ 3** **Add New Remote Destination** をクリックします。
- ステップ 4** Remote Destination フィールドに、宛先の電話番号を入力します。市外局番、および外線へのアクセスに必要なその他の数字も入力します。フィールドには 20 文字まで入力できます。各文字には、0 ~ 9 または A ~ D を使用できます。
- ステップ 5** ユーザの携帯電話からデスクの電話にコールを発信できるようにするには、携帯電話用に使用される発信者番号を Caller ID フィールドに入力します。コールが発信されると、発信者番号が検出され、携帯電話の呼び出し音を鳴らすことなく、コールはデスクの電話に誘導されます。発信者番号は、ユーザが Mobile Voice Access にコールしたときも自動的に検出されるため、ユーザはパスワードの入力だけを求められます。
- ステップ 6** この回線の Mobile Connect 機能を有効にするには、Enable Mobile Connect プルダウン リスト ボックスから **yes** を選択します。デフォルトは **yes** です。
- ステップ 7** 新しいリモート宛先は、自動的にシステム レベルの携帯電話タイマーの設定を継承します。設定を変更する必要がある場合は、[表 2-2](#) を参照してください。

ステップ 8 Save をクリックします。

レコードが保存されます。ウィンドウが再び開き、ユーザ アカウント情報が表示されます。ここでは、リモート宛先へのリンクも表示されます。

関連項目

- [新しいユーザ アカウントの追加](#)
- [既存のエンド ユーザ アカウントの検索](#)
- [既存ユーザの新しい着信グループの追加](#)
- [既存ユーザの新しいライン アピアランスの追加](#)
- [ユーザのライン アピアランスとリモート宛先のパラメータの入力](#)

ユーザのライン アピアランスとリモート宛先のパラメータの入力

この項の表では、ユーザのライン アピアランスとリモート宛先のパラメータについて説明します。

- [Mobile Connect の設定 \(P.2-22 \)](#)
- [携帯電話タイマーの設定 \(P.2-23 \)](#)

■ ユーザアカウントの設定

Mobile Connect の設定

表 2-1 では、Line Appearances ウィンドウで設定できる Mobile Connect の設定について説明します。

表 2-1 Mobile Connect の設定

フィールド	説明
Enable Caller ID Override	コール発信者の番号以外の番号を発信者番号ディスプレイに表示する場合は、 Enable を選択します。コール発信者の番号を表示する場合は、 Disable を選択します。デフォルトは、システム レベルのデフォルトです。
Caller ID Override Number	<p>発信者番号として表示する電話番号を入力します。フィールドには 20 文字まで入力できます。各文字には、0 ~ 9 または A ~ D の値を使用できます。フィールドを空白にすると、発信者番号がないことがディスプレイに示されます。</p> <p> (注) Enable Caller ID Override がディセーブルの場合、このフィールドは使用不可になっています。</p>
Enable Delay Before Ringing Cellular Phone	着信コールを受信したとき、遅延時間を置いてからリモート デバイス（携帯電話）の呼び出し音を鳴らすには、 Enable を選択します。遅延時間を設定することにより、デスクの電話は、着信コールを受信するための優先順位ステータスを維持します。遅延時間を設定しない場合は、 Disable を選択します。デフォルトは、システム レベルのデフォルトです。
Delay Before Ringing Cellular Phone	Enable Delay Before Ringing Cellular Phone フィールドで Enable を選択した場合に、遅延時間をミリ秒単位で入力します。範囲は 1,000 ~ 300,000 ミリ秒で、デフォルト値は 4,000 ミリ秒です。


携帯電話タイマーの設定

表 2-2 では、携帯電話でピックアップする場合の呼び出しとタイミングを制御する設定について説明します。

表 2-2 携帯電話タイマーの設定

フィールド	説明
Enable Maximum Cellular Phone Pickup Timer	コールがデスクの電話から切り替えられてから携帯電話が応答するまでの最大待機時間を設定するには、 Enable を選択します。デフォルトは、システムレベルのデフォルトです。
Maximum Cellular Phone Pickup Timer	Maximum Wait Time for Cellular Phone Pickup で Enable を選択した場合に、コールがデスクの電話から切り替えられてから携帯電話がピックアップされるまでの最大許容時間をミリ秒単位で入力します。指定した時間内にリモートデバイスが応答しない場合は、コールが切断されます。範囲は 1,000 ~ 300,000 ミリ秒で、デフォルトは 20,000 ミリ秒です。
Enable Maximum Cellular Phone Ring Timer	デスクの電話から携帯電話に切り替えられるコールに対してタイミング インターバルを設定するには、 Enable を選択します。デフォルトは、システムレベルのデフォルトです。
Maximum Cellular Phone Ring Timer	Enable Maximum Cellular Phone Ring Timer で Enable を選択した場合に、携帯電話の呼び出し音が鳴ってから携帯電話が切断されるまでの最大時間を入力します。範囲は 10,000 ~ 300,000 ミリ秒で、デフォルトは 19,000 ミリ秒です。
Enable Minimum Cellular Phone Ring/Pickup Timer	着信コールがあったとき、およびデスクの電話から携帯電話に切り替えられたときに携帯電話の呼び出し音が鳴るまでの最小タイミングを設定するには、 Enable を選択します。デフォルトは、システムレベルのデフォルトです。

表 2-2 携帯電話タイマーの設定 (続き)

フィールド	説明
Minimum Cellular Phone Ring/Pickup Timer	<p>Minimum Cellular Phone Ring Timer で Enable を選択した場合に、携帯電話での応答が可能になるまでの最小時間を入力します。この時間が経過する前に携帯電話で応答しようとする、コールはドロップされます (携帯電話のボイスメールがコールをピックアップしたと見なされます)。範囲は 1,000 ~ 10,000 ミリ秒で、デフォルトは 15,000 ミリ秒です。</p> <p> (注) リモート宛先として設定した携帯電話で着信コールがドロップされる場合は、ボイスメール用の携帯電話要件に合わせて、それらの携帯電話を調整してください。</p>

関連項目

- [新しいユーザアカウントの追加](#)
- [既存ユーザの新しい着信グループの追加](#)
- [既存ユーザの新しいライン アピアランスの追加](#)
- [新しいリモート宛先の追加](#)

既存のユーザアカウントのアップデート

既存のユーザアカウントをアップデートするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 System > User Information を選択します。

ステップ 2 アップデートするユーザアカウントを検索します。P.2-16 の「[既存のエンドユーザアカウントの検索](#)」を参照してください。

ステップ3 ウィンドウのフィールドに変更内容を入力するか、下線が引かれたリンクをクリックして、グループまたはライン アピアランスを変更します。

ステップ4 Save をクリックします。

関連項目

- [新しいユーザアカウントの追加](#)
- [既存のユーザアカウントの削除](#)

既存のユーザアカウントの削除

既存のユーザアカウントを削除するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 System > User Information を選択します。

ステップ2 削除するユーザアカウントを検索します。P.2-16の「[既存のエンドユーザアカウントの検索](#)」を参照してください。

ステップ3 次のいずれかの方法でレコードを削除します。

レコードのリストで実行する場合

- a. チェックボックスを使用して特定のレコードを選択するか、Select All をクリックしてすべてのレコードを選択します。
- b. Delete Selected をクリックします。
- c. OK をクリックして確定します。

開いているレコードで実行する場合

- a. Delete をクリックします。
 - b. OK をクリックして確定します。
-

■ ユーザアカウントの設定

関連項目

- [新しいユーザアカウントの追加](#)
- [既存のユーザアカウントのアップデート](#)

グループレコードのアップデート

ユーザに関連付けられているグループレコードをアップデートするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** System > User Information を選択します。
 - ステップ 2** ユーザレコードを開きます。P.2-16の「[既存のエンドユーザアカウントの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** グループのリンクをクリックします。
 - ステップ 4** 目的の変更を行います。
 - ステップ 5** Save をクリックします。
-

関連項目

- [既存ユーザの新しい着信グループの追加](#)
- [グループレコードの削除](#)

グループレコードの削除

ユーザに関連付けられているグループレコードを削除するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** System > User Information を選択します。
 - ステップ 2** ユーザレコードを開きます。P.2-16の「既存のエンドユーザアカウントの検索」を参照してください。
 - ステップ 3** グループのリンクをクリックします。
 - ステップ 4** グループレコードが開いたら、Delete をクリックします。
 - ステップ 5** OK をクリックして確定します。
-

関連項目

- [既存ユーザの新しい着信グループの追加](#)
- [グループレコードのアップデート](#)

ラインアピアランスのアップデート

ユーザに関連付けられているラインアピアランスをアップデートするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** System > User Information を選択します。
 - ステップ 2** ユーザレコードを開きます。P.2-16の「既存のエンドユーザアカウントの検索」を参照してください。

■ ユーザアカウントの設定

ステップ 3 ライン アピアランスが定義されたグループのリンクをクリックします。

ステップ 4 ライン アピアランスのリンクをクリックします。

ステップ 5 目的の変更を行います。

ステップ 6 Save をクリックします。

関連項目

- [既存ユーザの新しいライン アピアランスの追加](#)
- [ライン アピアランスの削除](#)

ライン アピアランスの削除

ユーザに関連付けられているライン アピアランスを削除するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 System > User Information を選択します。

ステップ 2 ユーザレコードを開きます。P.2-16の「[既存のエンドユーザアカウントの検索](#)」を参照してください。

ステップ 3 ライン アピアランスを定義するグループのリンクをクリックします。

ステップ 4 ライン アピアランスのリンクをクリックします。

ステップ 5 ライン アピアランスレコードが開いたら、Delete をクリックします。

ステップ 6 OK をクリックして確定します。

関連項目

- [既存ユーザの新しいライン アピアランスの追加](#)
- [ライン アピアランスのアップデート](#)

リモート宛先のアップデート

リモート宛先をアップデートするには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** System > User Information を選択します。
 - ステップ 2** 削除するリモート宛先のユーザ レコードを開きます。P.2-16 の「[既存のエンドユーザアカウントの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** リモート宛先が定義されたグループのリンクをクリックします。
 - ステップ 4** 目的の変更を行います。
 - ステップ 5** Save をクリックします。
-

関連項目

- [新しいリモート宛先の追加](#)
- [リモート宛先の削除](#)

リモート宛先の削除

リモート宛先を削除するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1 System > User Information を選択します。
 - ステップ 2 削除するリモート宛先のユーザ レコードを開きます。P.2-16 の「[既存のエンドユーザアカウントの検索](#)」を参照してください。
 - ステップ 3 リモート宛先が定義されたグループのリンクをクリックします。
 - ステップ 4 リモート宛先レコードが開いたら、Delete をクリックします。
 - ステップ 5 OK をクリックして確定します。
-

関連項目

- [新しいリモート宛先の追加](#)
- [リモート宛先のアップデート](#)



システムの設定

この章では、Cisco MobilityManager のコール処理に関するパラメータを設定する方法を説明します。作業を開始する前に、次のトピックを参照してください。

- システムパラメータの設定 (P.3-2)
- データ同期のイネーブル化 (P.3-12)
- データベースのバックアップと復元 (P.3-13)
- ディレクトリユーザの設定 (P.3-14)

Cisco CallManager システムへのリンクの設定については、第 2 章「使用する前に」を参照してください。

システムパラメータの設定

Cisco MobilityManager には、モバイル接続、デスクの電話と携帯電話のルールおよびタイマー、JAVA Telephony Programming Interface (JTAPI) の設定、SNMP¹ と Mobile Voice Access の設定に関するシステムレベルのモビリティパラメータがあります。

システムパラメータの多くは、User Information ウィンドウでユーザに対して個別に設定することもできます。ユーザ個別の設定により、System Parameters ウィンドウで割り当てたシステムレベルの設定は無効になります。



(注)

基本的な Cisco MobilityManager 動作のためには、情報を入力したり、System Parameters ページのデフォルト設定を変更したりする必要はありません。目的の機能を有効にするため、または修正するために必要な場合にだけ設定を修正してください。

システムパラメータを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Cisco MobilityManager 管理ウィンドウから、**System > System Parameters** を選択します。

System Parameters Configuration ページが開きます。

ステップ 2 Cisco MobilityManager サービスが停止していて、サービスを再開する必要がある場合は、Restart Cisco MobilityManager ボタンを使用します。

ステップ 3 Gateway Early Media フィールドは、デフォルト設定の Yes のままにしておきます。このフィールドは、トラブルシューティングに使用されることがあります。

1. SNMP サポートには、SNMP バージョン 1、バージョン 2c、およびバージョン 3 が含まれます。これらは、アラームまたは syslog の複数の受信者、syslog リード/ライト (read/write) 属性の設定、定期アラームに関して使用されます。

- ステップ 4** 表 3-1 の説明に従って、Mobile Connect の設定を選択します。
- ステップ 5** Maximum Wait Time for Desktop Phone Pickup フィールドに、許容する最大遅延時間をミリ秒単位で入力します。ユーザはこの時間内にデスクの電話をピックアップする必要があります。指定した時間を超過すると、コールは切断されます。範囲は 5,000 ~ 60,000 ミリ秒で、デフォルトは 10,000 ミリ秒です。
- ステップ 6** 表 3-2 の説明に従って、携帯電話ピックアップの設定を選択します。
- ステップ 7** 表 3-3 の説明に従って、携帯電話タイマーの設定を選択します。
- ステップ 8** 表 3-4 の説明に従って、JTAPI の自動アップデートに関する設定を選択します。
- ステップ 9** SNMP Target IP Address フィールドに、SNMP トラップを受信するシステムの IP アドレスを入力します。
- ステップ 10** SNMP Target Port Number フィールドに、SNMP ポート番号を入力します。デフォルトポートは 162 です。
- ステップ 11** 表 3-5 の説明に従って、Mobile Voice Access の設定を選択します。
- ステップ 12** 表 3-6 の説明に従って、Cisco CallManager AXL サーバの設定を入力します。
- ステップ 13** Save をクリックします。

関連項目

- [Mobile Connect の設定 \(P.3-4 \)](#)
- [携帯電話ピックアップの設定 \(P.3-5 \)](#)
- [携帯電話タイマーの設定 \(P.3-6 \)](#)
- [JTAPI ファイルの自動アップデートに関する設定 \(P.3-7 \)](#)
- [Mobile Voice Access の設定 \(P.3-9 \)](#)
- [Cisco CallManager AXL サーバの設定 \(P.3-10 \)](#)

Mobile Connect の設定

表 3-1 では、System Parameters ウィンドウで設定できる Mobile Connect の設定について説明します。

表 3-1 Mobile Connect の設定

フィールド	説明
Enable Caller ID Override	コール発信者の番号以外の番号を発信者番号ディスプレイに表示する場合は、Yes を選択します。コール発信者の番号を表示する場合は、No を選択します。デフォルトは No です。
Caller ID Override Number	発信者番号として表示する電話番号を入力します。フィールドには 20 文字まで入力できます。各文字には、0 ~ 9 または A ~ D の値を使用できます。フィールドをブランクにすると、発信者番号がないことがディスプレイに示されます。 Enable Caller ID Override がディセーブルの場合、このフィールドは使用不可になっています。
Enable Mobile Connect Feature	Mobile Connect 機能を有効にするには、Yes を選択します。No を選択すると、このウィンドウのその他のフィールドは無視されます。デフォルトは Yes です。
Enable Delay Before Ringing Cellular Phone	着信コールを受信したとき、遅延時間を置いてからリモート デバイス（携帯電話）の呼び出し音を鳴らすには、Yes を選択します。遅延時間を設定することにより、デスクの電話は、着信コールを受信するための優先順位ステータスを維持します。遅延時間を設定しない場合は、No を選択します。デフォルトは、システム レベルのデフォルトです。
Delay Before Ringing Cellular Phone	Enable Delay Before Ringing Cellular Phone フィールドで Yes を選択した場合に、遅延時間を入力します。範囲は 1,000 ~ 300,000 ミリ秒で、デフォルトは 10,000 ミリ秒です。

関連項目

- [携帯電話ピックアップの設定 \(P.3-5\)](#)
- [携帯電話タイマーの設定 \(P.3-6\)](#)
- [JTAPI ファイルの自動アップデートに関する設定 \(P.3-7\)](#)
- [Mobile Voice Access の設定 \(P.3-9\)](#)
- [Cisco CallManager AXL サーバの設定 \(P.3-10\)](#)

携帯電話ピックアップの設定

表 3-2 では、携帯電話ピックアップの設定について説明します。これらの設定により、着信コールがあったときの携帯電話のピックアップに関するルールが指定されます。

表 3-2 携帯電話ピックアップの設定

フィールド	説明
Enable Cellular Phone Pickup	コール進行中にデスクの電話からリモートの内線電話(携帯電話)にコールを切り替えることを許可するには、Yes を選択します。デフォルトは No です。
Enable Maximum Cellular Phone Pickup Timer	コールがデスク電話から切り替えられてから携帯電話が応答するまでの最大待機時間を設定するには、Yes を選択します。デフォルトは No です。
Maximum Wait Time for Cellular Phone Pickup (msec)	Enable for Maximum Wait Time for Cellular Phone Pickup で Yes を選択した場合に、コールがデスクの電話から切り替えられてから携帯電話がピックアップされるまでの最大許容時間をミリ秒単位で入力します。指定した時間内にリモート デバイスが応答しない場合は、コールが切断されます。範囲は 1,000 ~ 300,000 ミリ秒で、デフォルトは 20,000 ミリ秒です。

関連項目

- [Mobile Connect の設定 \(P.3-4 \)](#)
- [携帯電話タイマーの設定 \(P.3-6 \)](#)
- [JTAPI ファイルの自動アップデートに関する設定 \(P.3-7 \)](#)
- [Mobile Voice Access の設定 \(P.3-9 \)](#)
- [Cisco CallManager AXL サーバの設定 \(P.3-10 \)](#)

携帯電話タイマーの設定

表 3-3 では、携帯電話ピックアップの呼び出しとタイミングを制御する携帯電話タイマーの設定について説明します。

表 3-3 携帯電話タイマーの設定

フィールド	説明
Enable Maximum Cellular Phone Ring Timer	デスクの電話から携帯電話に切り替えられるコールに対するタイミング インターバルを設定するには、Yes を選択します。デフォルトは No です。
Maximum Cellular Phone Ring Timer	Enable Maximum Cellular Phone Ring Timer で Yes を選択した場合に、携帯電話の呼び出し音が鳴ってから携帯電話が切断されるまでの最大時間を入力します。この値は、Delay Before Ringing Cellular Phone フィールドで指定した間隔が終了した時点から測定されます (P.2-22 の表 2-1 を参照)。範囲は 10,000 ~ 300,000 ミリ秒で、デフォルトは 19,000 ミリ秒です。 このタイマーには、Cisco CallManager で当該回線に対して設定されている No Answer Ring Duration タイマーより小さい値を設定する必要があります。詳細については、『Cisco CallManager Administration Guide』を参照してください。

表 3-3 携帯電話タイマーの設定 (続き)

フィールド	説明
Enable Minimum Cellular Phone Ring Timer	着信コールがあったとき、およびデスクの電話から携帯電話に切り替えられたときに携帯電話の呼び出し音を鳴らす最小タイミングを設定するには、Yes を選択します。デフォルトは Yes です。
Minimum Cellular Phone Ring Timer	Minimum Cellular Phone Ring Time で Yes を選択した場合に、携帯電話での応答が可能になるまでの最小時間を入力します。この時間が経過する前に携帯電話で応答しようとする、コールはドロップされます (携帯電話のボイスメールがコールをピックアップしたと見なされます)。範囲は 1,000 ~ 10,000 ミリ秒で、デフォルトは 3,000 ミリ秒です。

関連項目

- [Mobile Connect の設定 \(P.3-4\)](#)
- [携帯電話ピックアップの設定 \(P.3-5\)](#)
- [JTAPI ファイルの自動アップデートに関する設定 \(P.3-7\)](#)
- [Mobile Voice Access の設定 \(P.3-9\)](#)
- [Cisco CallManager AXL サーバの設定 \(P.3-10\)](#)

JTAPI ファイルの自動アップデートに関する設定

表 3-4 では、JTAPI ファイルの自動アップデートに関する設定について説明します。これらの設定により、Cisco MobilityManager と Cisco CallManager の通信に使用される JTAPI のアップデートが制御されます。JTAPI ファイルの設定を使用して、JTAPI バージョンの自動同期を設定します。自動アップデートをイネーブルにすると、JTAPI のバージョンが自動的にアップデートされ、Cisco CallManager のものと同じバージョンになります。

Cisco CallManager 4.1.3 の jtapi.jar ファイルは、Cisco MobilityManager ソフトウェア ディストリビューションに組み込まれています。別のバージョンの Cisco CallManager を使用している場合は、この項の説明に従って JTAPI ファイルを設定する必要があります。



(注) JTAPI 自動アップデートを有効にするには、Cisco MobilityManager を再起動する必要があります。

表 3-4 JTAPI ファイルの自動アップデートに関する設定

フィールド	説明
Enable Auto Update JTAPI file	JAVA テレフォニーの設定の自動アップデートをイネーブルにするには、Yes を選択します。デフォルトは No です。
Always Update JTAPI File	Cisco MobilityManager が再起動するたびに JTAPI ファイルがアップデートされるようにするには、Yes を選択します。デフォルトは No です。
Auto Update JTAPI Server Name or IP Address	JTAPI ファイルの自動アップデートに対して Yes を選択した場合に、自動アップデートを提供するサーバの名前または IP アドレスを入力します。デフォルトはありません。
Use Secured Auto JTAPI Update	自動 JTAPI アップデートにセキュリティを追加するには、Yes を選択します。デフォルトは Yes です。
Auto Update JTAPI Server Path	JTAPI サーバの絶対パスまたは URL を入力します。デフォルトのパスは、 http://<Cisco CallManagerserver>/CCMPluginsServer です。 デフォルトのパスを使用する場合は、このフィールドには何も入力する必要はありません。
Auto Update JTAPI Server File Name	サーバ上の自動アップデート ファイルの名前を入力します。デフォルトは jtapi.jar です。デフォルトのファイルを使用する場合は、このフィールドには何も入力する必要はありません。
Auto Update JTAPI Local File Name	ローカルの自動アップデート ファイルの名前を入力します。デフォルトは jtapi.jar です。デフォルトのファイルを使用する場合は、このフィールドには何も入力する必要はありません。

関連項目

- [Mobile Connect の設定 \(P.3-4\)](#)
- [携帯電話ピックアップの設定 \(P.3-5\)](#)
- [携帯電話タイマーの設定 \(P.3-6\)](#)
- [Mobile Voice Access の設定 \(P.3-9\)](#)
- [Cisco CallManager AXL サーバの設定 \(P.3-10\)](#)

Mobile Voice Access の設定

表 3-5 では、Mobile Voice Access の設定について説明します。

表 3-5 Mobile Voice Access の設定


フィールド	説明
Mobile Voice Access Numbers	Mobile Voice Access 用の電話番号を入力します。フィールドには 200 文字まで入力できます。各文字には、0 ~ 9 または A ~ D を使用できます。複数の番号を入力するには、カンマを使用します。
Mobile Voice Access User Lock Out Timer (min)	ユーザが 3 回連続で正しくない入力をした後、Mobile Voice Access の使用を禁止される時間の長さを分単位で入力します。これは、正しくない PIN またはリモート宛先の入力に適用されます。範囲は 0 ~ 1,440 分で、デフォルトは 15 分です。
Enable System Remote Access	システム リモート アクセス機能をイネーブルにするには yes を、ディセーブルにするには no を選択します。
	 <p>(注) 各ユーザがシステム リモート アクセスを利用できるためには、このフィールドに yes を設定し、Cisco Mobile Connect User Configuration ウィンドウの Enable User Remote Access フィールドにもユーザごとに yes を設定する必要があります。P.2-14 の「新しいユーザアカウントの追加」を参照してください。</p>

表 3-5 Mobile Voice Access の設定 (続き)

フィールド	説明
System Remote Access Blocked Numbers	Mobile Voice Access を使用するコールを禁止するユーザの電話番号を入力します。フィールドには 200 文字まで入力できます。各文字には、0 ~ 9 または A ~ D を使用できます。複数の番号を入力するには、カンマを使用します。
System Remote Access Call Take Back Timer (sec)	Mobile Voice Access セッションがタイムアウトになるまでの秒数を入力します。範囲は 120 ~ 180 秒で、デフォルトは 120 秒です。

関連項目

- [Mobile Connect の設定 \(P.3-4\)](#)
- [携帯電話ピックアップの設定 \(P.3-5\)](#)
- [携帯電話タイマーの設定 \(P.3-6\)](#)
- [JTAPI ファイルの自動アップデートに関する設定 \(P.3-7\)](#)
- [Cisco CallManager AXL サーバの設定 \(P.3-10\)](#)

Cisco CallManager AXL サーバの設定

表 3-6 では、Cisco CallManager との通信に必要な Cisco CallManager AXL サーバの設定について説明します。

表 3-6 Cisco CallManager AXL サーバの設定

フィールド	説明
Cisco CallManager Version	Cisco CallManager のソフトウェア バージョン番号を入力します。例：4.1
Cisco CallManager AXL Server Name or IP Address	Cisco CallManager AXL サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。

表 3-6 Cisco CallManager AXL サーバの設定 (続き)

フィールド	説明
Cisco CallManager AXL User Name	Cisco CallManager AXL サーバへの管理者アクセス用のユーザ名を入力します。
Cisco CallManager AXL User Password	Cisco CallManager AXL サーバへの管理者アクセス用のパスワードを入力します。

関連項目

- [Mobile Connect の設定 \(P.3-4\)](#)
- [携帯電話ピックアップの設定 \(P.3-5\)](#)
- [携帯電話タイマーの設定 \(P.3-6\)](#)
- [JTAPI ファイルの自動アップデートに関する設定 \(P.3-7\)](#)
- [Mobile Voice Access の設定 \(P.3-9\)](#)

データ同期のイネーブル化

MobilityManager データベースを現在のランタイム メモリと同期するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** System > Data Synchronization を選択します。
 - ステップ 2** Start Now をクリックします。
 - ステップ 3** OK をクリックして、データの同期を開始することを確定します。
-

関連項目

- [システムパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [データベースのバックアップと復元 \(P.3-13\)](#)

データベースのバックアップと復元

SFTP サーバを使用して、Cisco MobilityManager のリモート システム情報のバックアップと復元を行うことができます。

バックアップと復元のパラメータを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 **System > Backup and Restore** を選択します。

Backup and Restore 画面が開きます。

ステップ 2 Host Name or IP Address フィールドに、バックアップ サーバを識別するための適切な情報を入力します。

ステップ 3 バックアップ サーバ用のユーザ ID とパスワードを入力します。

ステップ 4 パスワードを Confirm Password フィールドに再入力します。

ステップ 5 File Path フィールドに、バックアップ ファイルを保存または取得する場所を入力します。

ステップ 6 **Start Backup Now** をクリックして、指定した場所へのデータベースのバックアップを開始するか、**Start Restore Now** をクリックして、指定したファイルからの復元を開始します。

ステップ 7 リモートシステム情報を復元したら、[P.3-12](#) の「**データ同期のイネーブル化**」の手順に従ってデータの同期を実行します。

関連項目

- [システムパラメータの設定 \(P.3-2\)](#)
- [データ同期のイネーブル化 \(P.3-12\)](#)

ディレクトリユーザの設定

ディレクトリユーザの設定は、Cisco CallManager が使用するディレクトリサーバとの接続に必要です。接続が機能するには、ディレクトリサービスが設定されている Cisco CallManager と同じディレクトリユーザの設定を Cisco MobilityManager に行う必要があります。設定が正しく行われていないと、ユーザは User ページへのログインやプロフィールの変更を行うことができません。ディレクトリサービス情報は、DirectorySevices.ini ファイルに保存されています。このファイルは、Cisco CallManager c\$\dcdsrvr ディレクトリにあります。



(注)

ご使用の Cisco CallManager が Active Directory または Netscape ディレクトリを使用している場合は、『Cisco Customer Directory Configuration Plugin Guide for Cisco CallManager』を参照してください。DirectoryConfiguration.ini ファイルは、Directory User Settings ページが設定された後に作成されます。このファイルは、Call Manger \dcdsrvr ディレクトリ内のファイルと同じものになります。

ディレクトリユーザの設定を行うには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1 System > Directory User Settings を選択します。
- ステップ 2 表 3-7 に従って、Cisco CallManager に設定されているものと同じ値をこのウィンドウの各フィールドに入力します。
- ステップ 3 Save をクリックします。

表 3-7 ディレクトリ ユーザの設定

フィールド	説明
Directory Administrator Host Name or IP Address	ディレクトリ サービスのホスト名または IP アドレスを入力します。
Directory Administrator Host Port Number	DirectoryConfiguration.ini ファイルで設定されているポート番号を入力します。 例：Cisco CallManager で Data Connection Directory (DC-Directory) を使用している場合は、 8404 と入力します。
Directory Administrator DN	DirectoryConfiguration.ini ファイルで設定されている管理者ログイン用のディレクトリ番号を入力します。 例：Cisco CallManager で Data Connection Directory (DC-Directory) を使用している場合は、 cn=Directory Manager, o=cisco.com と入力します。
Directory Administrator Password	ディレクトリ サービスへのログインに使用されるパスワードを入力します。
Confirm Directory Administrator Password	ディレクトリ サービスへのログインに使用されるパスワードを再入力します。
Cisco Directory Administrator DN	DirectoryConfiguration.ini ファイルで設定されているディレクトリ管理者の番号を入力します。 例：Cisco CallManager で Data Connection Directory (DC-Directory) を使用している場合は、 o=cisco.com と入力します。
Directory Type	DirectoryConfiguration.ini ファイルで設定されているとおり、Default、ADS、または NDS を入力します。

関連項目

- [Cisco MobilityManager 管理へのアクセス \(P.2-2\)](#)
- [CallManager のリンクの設定 \(P.2-4\)](#)

■ ディレクトリユーザの設定



サービスサビリティの設定

システムおよびコール動作の監視に役立つ多様な測定情報を利用できます。アラーム、測定、およびデバッグの情報を表示するには、この章の次のトピックを参照してください。

- [アラーム情報の表示 \(P.4-2\)](#)
- [測定情報の表示 \(P.4-4\)](#)
- [ログレベルの設定 \(P.4-7\)](#)
- [Cisco MobilityManager サービスのステータスの表示 \(P.4-8\)](#)

アラーム情報の表示

Cisco MobilityManager Alarm ウィンドウには、システムによって検出された注目すべきイベントの情報がリストされます。アラームは、エラー状態が発生したときに設定され、エラーが修正されるとクリアされます。

アラーム情報を検索および表示するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Serviceability > Alarm を選択します。

Find and List Cisco MobilityManager Alarms ウィンドウが開きます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、検索するカテゴリを選択します。次のカテゴリがあります。

- alarmcategory
- alarmcomponent
- severity
- date

ステップ 3 ドロップダウン リスト ボックスから、次のいずれかの基準を選択します。

- begins with
- contains
- ends with
- is exactly
- is empty
- is not empty

ステップ4 必要に応じて検索テキストを入力し、**Find** をクリックします。1 ページあたりの表示項目数を指定することもできます。

すべてのアラームを検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

要求したアラームがウィンドウに表示されます。

ステップ5 1 ページあたりに表示されるアラーム レコード数を変更するには、Row per Page ドロップダウン リスト ボックスから数字を選択します。

表 4-1 に、アラームの表示の各列にあるアラーム情報を示します。アラームは日付でソートされ、最新のアラームが先頭にリストされます。

表 4-1 アラーム情報

カテゴリ	説明
Alarm category	アラームのタイプ
Alarm component	アラームを生成した Cisco MobilityManager エリア
Alarm Severity	アラームの重大度
Date	アラームが生成された日付と時刻

関連項目

- [測定情報の表示 \(P.4-4\)](#)
- [測定情報の解釈 \(P.4-5\)](#)
- [ログレベルの設定 \(P.4-7\)](#)

測定情報の表示

Cisco MobilityManager Measurement ウィンドウには、Cisco MobilityManager サーバによって収集された測定情報が表示されます。



(注) 測定カウンタをゼロにリセットするには、**Reset Measurement Counters** をクリックします。

測定統計情報を表示するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 **Serviceability > Measurement** を選択します。

Find and List Cisco MobilityManager Measurements ウィンドウが開きます。

ステップ 2 測定情報の名前を検索するために、ドロップダウン リスト ボックスから次のいずれかの基準を選択します。

- begins with
- contains
- ends with
- is exactly
- is empty
- is not empty

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、**Find** をクリックします。1 ページあたりの表示項目数を指定することもできます。

すべての測定情報を検索するには、検索テキストを入力せずに **Find** をクリックします。

要求した測定情報がウィンドウに表示されます。測定情報は、Measurement Name でアルファベット順にソートされています。

ステップ 4 1 ページあたりに表示されるレコード数を変更するには、Row per Page ドロップダウン リスト ボックスから数字を選択します。

関連項目

- [測定情報の解釈 \(P.4-5\)](#)
- [アラーム情報の表示 \(P.4-2\)](#)
- [ログレベルの設定 \(P.4-7\)](#)

測定情報の解釈

表 4-2 に、使用可能な測定情報の説明を示します。測定情報の表示方法については、P.4-4 の「測定情報の表示」を参照してください。

表 4-2 測定情報カテゴリ

測定情報名	説明
Attempted Calls	試行された発信コールの数
Attempted Mobile Connect Calls	試行された発信コールのうち、ダイヤルトーンが検出されたコールの数
Attempted System Remote Access Calls	リモート デバイスから試行された発信コールの数
Completed Calls	完了したコールの数
Completed System Remote Access Calls	完了したコールのうち、システム リモート アクセスに Mobile Voice Access を使用したコールの数
Desk Answered Calls	デスクの電話が応答したコールの数
Desk to Remote Handoff Calls	リモート デバイスでピックアップされたコールの数
Failed Calls	完了しなかった発信コールの数

表 4-2 測定情報カテゴリ (続き)

測定情報名	説明
Failed Mobile Connect Calls	Mobile Voice Access を使用してシステムリモート アクセスを正常に取得することができなかった発信コールの数
Failed System Remote Access Calls	Mobile Voice Access を使用してシステムリモート アクセスを取得したが、コールが完了しなかった発信コールの数
Handoff Calls	デスクの電話または携帯電話でのピックアップ数
Incoming Calls	完了した着信コールの数
Max Current Calls	同時に実行されるコールの最大数
Max Simultaneous Attempted Calls	同時に処理されるコール試行の最大数
Remote Answered Calls	リモート デバイスでの成功ピックアップ数
Remote Answered Calls Pickup Key	ピックアップ キーを使用して携帯電話でピックアップされたコールの数
Remote to Desk Handoff Calls	デスクの電話で正常にピックアップされたコールの数

関連項目

- [測定情報の表示 \(P.4-4\)](#)
- [アラーム情報の表示 \(P.4-2\)](#)
- [ログレベルの設定 \(P.4-7\)](#)

ログレベルの設定

Cisco MobilityManager and Admin Log Level ウィンドウを使用して、システム ログ ファイルに記録するアラームのタイプを指定できます。デフォルトのログレベルは、情報目的専用です。トラブルシューティング用には、レベルを変更したほうがよい場合があります。

ログレベルを設定するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Serviceability > Debug を選択します。

Cisco MobilityManager and Admin Log Level Configuration ウィンドウが開きます。

ステップ 2 ドロップダウン リスト ボックスから、記録する最小アラーム レベルを選択します。ログレベルの説明については、表 4-3 を参照してください。デフォルトのレベルは info です。

ステップ 3 Save をクリックし、ロギング基準を変更して新しいレベルを含めます。

表 4-3 ログレベル

レベル	説明
debug	トラブルシューティングでの使用に適したメッセージ、およびそれより高いレベルのメッセージが含まれます。
info	情報メッセージおよびそれより高いレベルのメッセージが含まれます。
warn	運用上の問題がある可能性を警告するメッセージ、およびそれより高いレベルのメッセージが含まれます。
error	エラー メッセージおよびそれより高いレベルのメッセージが含まれます。
fatal	システム障害の原因となったエラー メッセージが含まれます。

関連項目

- [測定情報の表示 \(P.4-4\)](#)
- [アラーム情報の表示 \(P.4-2\)](#)

Cisco MobilityManager サービスのステータスの表示

Cisco MobilityManager Service Status ウィンドウには、Cisco MobilityManager が稼働するために実行される必要のあるサービスの現在のステータスが表示されません。

サービスのステータスを表示するには、**Serviceability > Service Status** を選択します。表 4-4 に、リストされるサービスの説明を示します。各サービスのステータスは Running または Stopped です。

Cisco MobilityManager サービスが Stopped としてリストされている場合、System Parameters 画面でそのサービスを再開することができます。

Cisco MobilityManager サービスを再開するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Cisco MobilityManager 管理ウィンドウから、**System > System Parameters** を選択します。System Parameters Configuration ページが開きます。
- ステップ 2** **Restart Cisco MobilityManager** をクリックします。
- ステップ 3** **OK** をクリックして確定します。
-

表 4-4 Cisco MobilityManager サービス

サービス	説明
Cisco MobilityManager	Cisco MobilityManager をサポートするコール処理ソフトウェア
Cisco MobilityManager SNMP	SNMP ネットワーク管理エージェント プロセス
Cisco Discovery Protocol	ネットワーク内のシスコデバイスと Cisco CallManager サーバの検出に使用されるプロセス
Cisco MobilityManager DATABASE	Cisco MobilityManager データベース (IBM IDS) を制御するプロセス



ファイルのエクスポート

この章では、システムおよびコールの情報を SFTP サーバに保存してエクスポートする方法を説明します。エクスポート機能を実行するには、この章の次のトピックを参照してください。

- [アラーム レコードのエクスポート \(P.5-2\)](#)
- [測定情報のエクスポート \(P.5-3\)](#)
- [呼詳細レコードのエクスポート \(P.5-4\)](#)
- [ログ ファイルのエクスポート \(P.5-5\)](#)

アラーム レコードのエクスポート

アラーム レコードをリモート サーバにエクスポートするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Export > Alarm を選択します。

Alarm Export Information Configuration ウィンドウが開きます。ウィンドウの上部付近にある File Information に、使用可能なアラーム ファイルがリストされます。

ステップ 2 エクスポートするログ ファイルを選択し、下向き矢印を使用するか、ダブルクリックして、選択したファイルを Exported Alarm Files 領域に移動します。必要に応じて、他のファイルに対して操作を繰り返します。

ステップ 3 Remote Server Name フィールドに、ファイル保存先のリモート サーバの名前または IP アドレスを入力します。

ステップ 4 宛先ディレクトリを、*<path>* の形式で Remote Directory フィールドに入力します。

ステップ 5 リモート サーバへのアクセスに使用されるユーザ ID とパスワードを入力します。

ステップ 6 パスワードを Confirm Password フィールドに再入力します。

ステップ 7 Save and Transfer をクリックして情報を保存し、ファイル転送プロセスを開始します。

プロセスが完了すると、ステータス メッセージがウィンドウの上部付近に表示されます。プロセスが正常に完了した場合は、「Export successful」というメッセージが表示されます。

関連項目

- [測定情報のエクスポート \(P.5-3\)](#)
- [呼詳細レコードのエクスポート \(P.5-4\)](#)
- [ログ ファイルのエクスポート \(P.5-5\)](#)

測定情報のエクスポート

測定情報をリモート サーバにエクスポートするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 **Export > Measurement** を選択します。

Measurement Export Information Configuration ウィンドウが開きます。ウィンドウの上部付近にある File Information に、使用可能な測定情報ファイルがリストされます。

ステップ 2 エクスポートするファイルを選択し、下向き矢印を使用するか、ダブルクリックして、選択したファイルを Exported Measurement Files 領域に移動します。必要に応じて、他のファイルに対して操作を繰り返します。

ステップ 3 Remote Server Name フィールドに、ファイル保存先のリモート サーバの名前または IP アドレスを入力します。

ステップ 4 宛先ディレクトリを、`/<path>` の形式で Remote Directory フィールドに入力します。

ステップ 5 リモート サーバへのアクセスに使用されるユーザ ID とパスワードを入力します。

ステップ 6 パスワードを Confirm Password フィールドに再入力します。

ステップ7 Save をクリックして情報を保存し、ファイル転送プロセスを開始します。

プロセスが完了すると、ステータス メッセージがウィンドウの上部付近に表示されます。プロセスが正常に完了した場合は、「Export successful」というメッセージが表示されます。

関連項目

- [アラーム レコードのエクスポート \(P.5-2\)](#)
- [呼詳細レコードのエクスポート \(P.5-4\)](#)
- [ログ ファイルのエクスポート \(P.5-5\)](#)

呼詳細レコードのエクスポート

Call Detail Record (CDR; 呼詳細レコード) ファイルをリモート サーバにエクスポートするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ1 Export > CDR を選択します。

CDR Export Information Configuration ウィンドウが開きます。使用可能な CDR ログ ファイルが、ウィンドウ上部付近の File Information の下に表示されます。

ステップ2 エクスポートするファイルを選択し、下向き矢印を使用するか、ダブルクリックして、選択したファイルを Exported CDR Files 領域に移動します。必要に応じて、他のファイルに対して操作を繰り返します。

ステップ3 Remote Server Name フィールドに、ファイル保存先のリモート サーバの名前または IP アドレスを入力します。

ステップ4 宛先ディレクトリを、/<path> の形式で Remote Directory フィールドに入力します。

ステップ 5 リモート サーバへのアクセスに使用されるユーザ ID とパスワードを入力します。

ステップ 6 パスワードを Confirm Password フィールドに再入力します。

ステップ 7 Save をクリックして情報を保存し、ファイル転送プロセスを開始します。

プロセスが完了すると、ステータス メッセージがウィンドウの上部付近に表示されます。

関連項目

- [アラーム レコードのエクスポート \(P.5-2\)](#)
- [測定情報のエクスポート \(P.5-3\)](#)
- [ログ ファイルのエクスポート \(P.5-5\)](#)

ログ ファイルのエクスポート

ログ ファイルをリモート サーバにエクスポートするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Export > Logs を選択します。

Log Export Information Configuration ウィンドウが開きます。ウィンドウの上部付近にある File Information に、使用可能なログ ファイルがリストされます。

ステップ 2 エクスポートするログ ファイルを選択し、下向き矢印を使用して、選択したファイルを Exported Log Files 領域に移動します。必要に応じて、他のファイルに対して操作を繰り返します。



(注) ログファイルの表示またはコンピュータへのログファイルのダウンロードを行うには、ログファイルをダブルクリックします。

- ステップ 3** Remote Server Name フィールドに、ファイル保存先のリモートサーバの名前または IP アドレスを入力します。
- ステップ 4** Remote Directory フィールドに、宛先ディレクトリを `<path>` の形式で入力します。
- ステップ 5** リモートサーバへのアクセスに使用されるユーザ ID とパスワードを入力します。
- ステップ 6** パスワードを Confirm Password フィールドに再入力します。
- ステップ 7** Save をクリックして情報を保存し、ファイル転送プロセスを開始します。

プロセスが完了すると、ステータスメッセージがウィンドウの上部付近に表示されます。プロセスが正常に完了した場合は、「Export successful」というメッセージが表示されます。

関連項目

- [アラームレコードのエクスポート \(P.5-2\)](#)
- [測定情報のエクスポート \(P.5-3\)](#)
- [呼詳細レコードのエクスポート \(P.5-4\)](#)



プラットフォームの管理

Cisco MobilityManager サーバ プラットフォームの管理用に、次のツールが用意されています。

- 全面的なプラットフォーム管理機能を提供する Cisco IPT Platform Administration Web ページ
- 部分的なプラットフォーム管理機能を提供する Command Line Interface(CLI; コマンドライン インターフェイス)

ブラウザ ベースのインターフェイスおよびコマンドライン インターフェイスの使用方法については、次のトピックを参照してください。

- [Cisco IPT Platform Administration Web ページの使用法 \(P.6-2 \)](#)
- [Cisco IPT Platform Administration コマンドライン インターフェイス \(P.6-18 \)](#)

Cisco IPT Platform Administration Web ページの使用法

Cisco IPT Platform Administration Web ページでは、Cisco MobilityManager サーバプラットフォームを設定および管理できます。次の機能を実行できます。

- プラットフォーム コンポーネントのステータスを確認する：Status ウィンドウに、読み取り専用の次のハードウェア情報およびプラットフォーム情報が表示されます。
 - プラットフォーム ステータス：Cisco MobilityManager サーバのインストール中に入力した情報が表示されます。これには、ホスト名、イーサネット ポートのステータス、IP アドレス、メモリ使用状況、および CPU 使用率が含まれます。
 - ハードウェア ステータス：ハードウェア プラットフォームの情報が表示されます。
- ネットワークの設定を行う：IP アドレスと、アプリケーションをインストールしたときに入力した Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) 情報を修正できます。また、Network Time Protocol (NTP; ネットワーク タイム プロトコル) サーバおよびクライアントを追加すること、NTP 設定を同期することもできます。
- 他のネットワーク デバイスとの接続性を検証する：PING ユーティリティを使用して、ネットワークの接続性を検証できます。
- ソフトウェアのアップグレードを実行する：Cisco MobilityManager サーバソフトウェアの現在のバージョンを確認し、ローカル ソース (CD-ROM または DVD) またはリモート ソース (ネットワーク上のサーバ) からソフトウェアをアップグレードできます。
- システムのリポート：システムをリポートして現在のソフトウェアイメージの使用を継続することも、システムをリポートして別のソフトウェアイメージの使用を開始することもできます。

関連項目

- [ログイン \(P.6-3\)](#)
- [Show Status \(P.6-3\)](#)
- [Settings \(P.6-6\)](#)
- [Software Upgrade の各種ウィンドウ \(P.6-11\)](#)
- [システムの電源オフまたはリポート \(P.6-16\)](#)

ログイン

Cisco IPT Platform Administration にアクセスしてログインするには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Cisco CallManager Administration ウィンドウで、**Show Navigation** をクリックします。
- ステップ 2** 左側のパネルで、**Platform Administration** をクリックします。
- ステップ 3** Cisco IPT Platform Administration Logon ウィンドウで、ユーザ名とパスワードを入力します。



(注) ユーザ名とパスワードは、インストール中に設定されています。

- ステップ 4** **Submit** をクリックします。

Show Status

Show Status メニューの次のオプションを使用して、プラットフォーム ステータスおよびハードウェア ステータスの情報を表示します。

- Platform Status : プラットフォームのインストール中に入力した情報が表示されます。これには、ホスト名、イーサネット ポートのステータス、IP アドレス、メモリ使用状況、および CPU 使用率が含まれます。
- Hardware Status : プラットフォームのモデル、CPU タイプ、メモリ、オブジェクト ID、および OS バージョンが表示されます。

プラットフォーム ステータス

Platform Status ウィンドウを開くには、**Show Status > Platform Status** を選択します。表 6-1 に、このウィンドウに表示されるフィールドの説明を示します。

表 6-1 Platform Status のフィールド

フィールド	説明
System	
Host Name	Cisco Platform Administration がインストールされた MCS 78xx ホストの名前が表示されます。
Date/Time	プラットフォームのインストール中に指定した大陸と地域に基づいて、日付と時刻が表示されます。
Locale	プラットフォームのインストール中に選択した言語が表示されます。
Time Zone	インストール中に選択した時間帯が表示されます。
Network	
Status	イーサネット ポート 0 および 1 について、ポートが Up であるか Down であるかが示されます。
DHCP	イーサネット ポート 0 および 1 について、DHCP が有効であるかどうかを示されます。
IP Address	イーサネット ポート 0 および 1 の IP アドレスが表示されます。
IP Mask	イーサネット ポート 0 および 1 のサブネット マスクアドレスが表示されます。
Primary DNS	プライマリのドメイン ネーム サーバの IP アドレスが表示されます。
Domain	プラットフォーム ドメインの名前が表示されます。
Secondary DNS	セカンダリのドメイン ネーム サーバの IP アドレスが表示されます。
Gateway	イーサネット ポート 0 上のネットワーク ゲートウェイの IP アドレスが表示されます。

表 6-1 Platform Status のフィールド (続き)

フィールド	説明
Resources	
CPU	アイドル状態の CPU キャパシティの割合、システムプロセスを実行している割合、およびユーザプロセスを実行している割合が表示されます。
Memory	総メモリ、空きメモリ、および使用メモリのサイズが KB 単位で表示されます。
Disk/active	アクティブ ディスク上の総ディスク スペース、空きディスク スペース、および使用ディスク スペースのサイズが表示されます。
Disk/inactive	非アクティブディスク上の総ディスク スペース、空きディスク スペース、および使用ディスク スペースのサイズが表示されます。
Disk/logging	ディスク ロギングに使用される総ディスク スペース、空きディスク スペース、および使用ディスク スペースのサイズが表示されます。

ハードウェア ステータス

Hardware Status ウィンドウを開くには、**Show Status > Hardware Status** を選択します。表 6-2 に、このウィンドウに表示されるフィールドの説明を示します。

表 6-2 Hardware Status のフィールド

フィールド	説明
Hardware Platform	プラットフォーム サーバのモデル識別情報が表示されます。
Number of Processors	プラットフォーム サーバのプロセッサ数が表示されます。
CPU Type	プラットフォーム サーバのプロセッサ タイプが表示されます。
Memory	総メモリ量が MB 単位で表示されます。

表 6-2 Hardware Status のフィールド (続き)

フィールド	説明
Object ID	ソフトウェア オブジェクト ID が表示されます。
OS Version	プラットフォーム上で実行されているソフトウェア オペレーティング システムのバージョンが表示されます。

Settings

次の表示と変更を行うには、Settings ウィンドウを使用します。

- IP の設定
- ホストの設定
- NTP の設定
- PING ユーティリティ

IP の設定

IP Settings ウィンドウには、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) がイーサネット接続 0 および 1 でアクティブであるかどうかが表示され、関連するイーサネット IP アドレスがリストされます。また、ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスも表示されます。

IP の設定を修正するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Settings > IP Settings を選択します。
 - ステップ 2** 表 6-3 の説明に従って、適切なフィールドに新しい値を入力します。
 - ステップ 3** Execute をクリックします。
-

表 6-3 IP Settings のフィールド

フィールド	説明
Ethernet 0 and Ethernet 1	
DHCP	DHCP がアクティブであるかどうかを示されます。
IP Address	DHCP サーバの IP アドレスが示されます。
IP Mask	DHCP サーバの IP サブネット マスク アドレスが示されます。
Network	
Gateway	ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスが示されます。

ホストの設定

Host Settings ウィンドウには、プラットフォーム ホストの名前と IP アドレスが表示されます。プラットフォームのインストール手順の中で値を設定する必要があります。

新しいホストを追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** Settings > Host Settings を選択します。
- ステップ 2** Add をクリックします。
- ステップ 3** 新しいホスト名と IP アドレスを入力します。
- ステップ 4** Save をクリックします。

NTP の設定

NTP Settings ウィンドウには、NTP の設定が表示されます。このウィンドウでは、プラットフォームを NTP サーバまたは NTP クライアントのいずれかとして設定できます。また、このウィンドウでは、NTP サービスの開始および停止を行うこともできます。

NTP の設定を行うには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Settings > NTP Settings を選択します。
- ステップ 2** 表 6-4 の説明に従って、情報を入力します。
- ステップ 3** Save をクリックします。
-

表 6-4 NTP Settings のフィールド

フィールド	説明
NTP Status	
Status	NTP サービスがアクティブであるかどうかを示されます。NTP サービスのステータスを制御するには、 Start または Stop をクリックします。

表 6-4 NTP Settings のフィールド (続き)

フィールド	説明
NTP Server Configuration (プラットフォームがサーバの場合)	
Add/Delete	<p>NTP サーバを追加または削除します。</p> <p>NTP サーバを追加する手順</p> <ol style="list-style-type: none">1. Add をクリックします。2. サーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。3. Save をクリックします。確認メッセージが表示されます。4. NTP Settings をクリックして NTP Settings ウィンドウに戻ります。 <p>NTP サーバを削除する手順</p> <ol style="list-style-type: none">1. サーバ エントリの左側のチェックボックスをオンにします。2. Delete をクリックします。3. Save をクリックします。確認メッセージが表示されます。4. NTP Settings をクリックして NTP Settings ウィンドウに戻ります。
Address	NTP サーバの IP アドレスが表示されます。
Hostname	NTP サーバの名前が表示されます。
Status	NTP サーバがアクティブであるかどうかを示されます。

表 6-4 NTP Settings のフィールド (続き)

フィールド	説明
NTP Client Configuration (プラットフォームがクライアントの場合)	
Add/Delete	<p>NTP クライアントを追加または削除します。</p> <p>NTP クライアントを追加する手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Add をクリックします。 2. IP アドレスとマスクを入力するか、ホスト名を入力します。 3. Save をクリックします。確認メッセージが表示されます。 4. NTP Settings をクリックして NTP Settings ウィンドウに戻ります。 <p>NTP クライアントを削除する手順</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エントリの左側のチェックボックスをオンにします。 2. Delete をクリックします。 3. Save をクリックします。確認メッセージが表示されます。 4. NTP Settings をクリックして NTP Settings ウィンドウに戻ります。
Address	NTP クライアントの IP アドレスが表示されます。
Hostname	NTP クライアントの名前が表示されます。
Mask	NTP クライアントのサブネット マスクが表示されます。

PING ユーティリティ

Ping Utility ウィンドウでは、PING メッセージをネットワーク内の別のサーバに送信できます。

PING ユーティリティを使用するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Utilities > Ping を選択します。
 - ステップ 2** 送信先の IP アドレスと送信する PING パケットの数を入力します。
 - ステップ 3** Execute をクリックします。
 - ステップ 4** Ping Utility ウィンドウに、PING 統計情報が表示されます。Cancel または Done をクリックして、PING 操作を終了します。
-

Software Upgrade の各種ウィンドウ

次に示す Software Upgrade のウィンドウでは、Cisco IPT プラットフォーム ソフトウェアをローカル ソースまたはリモート ソースからアップグレードしたり、現在のソフトウェア バージョンを表示したりできます。また、個々のソフトウェア コンポーネントを確認することもできます。

- From Local Source
- From Remote Source
- Show Current Version
- Check Component Info



プラットフォーム ソフトウェアをアップグレードする前に、それ以外のすべてのソフトウェアのアップグレードとインストールが完了していることを確認してください。最新の Install/Upgrade ログで、他の Install/Upgrade プロセスが存在しないことを確認してください。

From Local Source

CDまたはDVD からサーバソフトウェアをアップグレードするには、From Local Source ウィンドウを使用します。

始める前に

- アップグレード ディスクを作成または取得します。
- システム データをバックアップします。P.3-13 の「データベースのバックアップと復元」を参照してください。

アップグレードを実行するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 新しい CD または DVD を、アップグレードするローカル サーバのディスク ドライブに挿入します。
- ステップ 2** Software Upgrade > From Local Source を選択します。
- ステップ 3** 表 6-5 の説明に従って、必要なアップグレード情報を入力します。
- ステップ 4** Submit をクリックします。
- アップグレード ステータスを示すメッセージが表示されます。このとき、以前にダウンロードしたソフトウェア イメージのリストも表示されます。
- ステップ 5** アップグレードが完了する前に操作を終了する場合は、Cancel をクリックします。
-

表 6-5 Local Source Upgrade のフィールド

フィールド	説明
Upgrade Software Directory on CD/DVD	ソフトウェア アップグレードがある (CD または DVD 上の) ディレクトリを入力します。
Platform	Linux (デフォルト) を選択します。

From Remote Source

リモート ネットワーク ロケーションからソフトウェアをアップグレードするには、From Remote Source ウィンドウを使用します。

始める前に

システム データをバックアップします。P.3-13 の「データベースのバックアップと復元」を参照してください。

リモート ロケーションからアップグレードするには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Software Upgrade > From Remote Source を選択します。

ステップ 2 必要なアップグレード情報を入力します。

表 6-6 に、アップグレード情報の説明を示します。

ステップ 3 Submit をクリックします。

ステップ 4 ダウンロードするソフトウェア バージョンを選択します。

ステップ 5 ソフトウェアをアップグレードすることを確定します。

ステップ 6 システムをリブートします。

アップグレード ステータスを示すメッセージが表示されます。このとき、以前にダウンロードしたソフトウェア イメージのリストも表示されます。

表 6-6 Remote Source Upgrade のフィールド

フィールド	説明
Remote Software Server	ソフトウェアのダウンロード元とするリモートサーバのホスト名または IP アドレスを入力します。
Remote User	リモート サーバ上に設定されているユーザの名前を入力します。
Remote User Password	このユーザに対してリモート サーバ上で設定されているパスワードを入力します。
Upgrade Software Directory	ソフトウェアのダウンロード元とするディレクトリの名前を入力します。
Download Protocol	sftp (デフォルト) または ftp を選択します。
Platform	Linux を選択します。

Show Current Version

Show Current Version ウィンドウでは、Cisco IPT Platform 上で実行されているソフトウェアの現在のバージョンを表示できます。

現在のソフトウェアバージョンを表示するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** Software Upgrade > Show Current Version を選択します。
 - ステップ 2** Retrieve をクリックして、バージョン情報を取得します。
 - ステップ 3** 情報の確認が終了したら、OK をクリックします。
-

Check Component Info

Check Component Info ウィンドウでは、次のカテゴリの情報を確認できます。

- インストールされたソフトウェア パッケージ
- インストール プロセス
- ポストインストール プロセス
- アップグレード プロセス
- ディレクトリまたはファイルのコンテンツ

コンポーネント情報を確認するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 Software Upgrade > Check Component Info を選択します。

ステップ 2 次のいずれかの情報タイプを選択します。

- Software Packages
- Install
- Post Install
- Upgrade

または、取得するファイルの名前を入力します。

ステップ 3 (オプション) ファイルから取得する行数を入力します。0 と入力すると、ファイル全体が取得されます。

ステップ 4 Retrieve をクリックします。

ステップ 5 情報ウィンドウが開きます。情報ウィンドウで、次の機能を実行します。

- アップデートされた情報を取得するには、**Refresh** をクリックします。
 - 情報ウィンドウを閉じるには、**Cancel** をクリックします。
 - IPT Platform Administration のページを引き続き使用するには、ウィンドウの左側にあるメニューから選択します。
-

システムの電源オフまたはリブート

ローカル ソースまたはリモート ソースからソフトウェアをアップグレードすると、ソフトウェア アップグレードがサーバのスタンバイ パーティションにダウンロードされます。Switch Versions and Reboot ウィンドウでは、アクティブ パーティション（以前のバージョンのソフトウェアを実行しているパーティション）からスタンバイ パーティション（アップグレードされたソフトウェアがあるパーティション）に切り替えることができます。

また、現在のソフトウェア バージョンを実行しているシステムをリブートしたり、電源を完全にオフにすることもできます。

Switch Versions and Reboot

ローカル ソースまたはリモート ソースからソフトウェアをアップグレードすると、ソフトウェア アップグレードがサーバのスタンバイ パーティションにダウンロードされます。このウィンドウでは、アクティブ パーティション（以前のバージョンのソフトウェアを実行しているパーティション）からスタンバイ パーティション（アップグレードされたソフトウェアがあるパーティション）に切り替えることができます。方法は次のとおりです。



注意

バージョンを切り替えてリブートする前に、完全なデータ バックアップを必ず実行してください。

- ソフトウェア バージョンを切り替えてシステムをリブートするには、**Proceed** をクリックします。
- ソフトウェア バージョンを切り替えてシステムをリブートする作業をキャンセルするには、**Cancel** をクリックします。

Reboot Current Version

Reboot Current Version ウィンドウでは、システムをリブートし、同じバージョンのソフトウェアを引き続き実行することができます。



注意

システムをリブートする前に、データ バックアップを必ず実行してください。

- システムをリブートするには、**Proceed** をクリックします。
- システムのリブートをキャンセルするには、**Cancel** をクリックします。

Poweroff System

Poweroff System ウィンドウでは、次の方法でシステムを正常にシャットダウンできます。



注意

シャットダウン プロセスを開始する前に、システム データを必ずバックアップしてください。

- システムのシャットダウンを開始するには、**Confirm** をクリックします。
- システムのシャットダウンをキャンセルするには、**Cancel** をクリックします。

Cisco IPT Platform Administration コマンドライン インターフェイス

この項では、基本的なプラットフォーム管理機能を実行するコマンドについて説明します。この項で説明されているすべてのコマンドは、Cisco IPT Platform Administration Web アプリケーションでも使用できます。P.6-2 の「[Cisco IPT Platform Administration Web ページの使用方法](#)」を参照してください。



(注) Command-Line Interface (CLI; コマンドライン インターフェイス) は、Cisco IPT Platform Administration Web アプリケーションが使用できない場合に限り使用することをお勧めします。

次の CLI コマンドを使用できます。

- file list
- file view
- ping
- restart
- service list
- service start
- service stop
- set hostname
- set ip (DHCP)
- set ip (IP)
- set security
- set task alarm
- set task trace
- show status
- show hw
- show security
- show files activelog

- show files activlog cli.log
- show files inactive log
- show files install
- show files install ks.cfg
- show files install partAlloc
- show files install install.log
- show files install install.post
- tracert

CLI セッションの開始

Cisco IPT Platform Administration CLI には、次の方法でローカルまたはリモートのロケーションからアクセスできます。

- Cisco MobilityManager のインストール中に使用したモニタとキーボードを使用するか、シリアルポートに接続されているターミナルサーバを使用して、Cisco IPT Platform Administration CLI に直接アクセスします。
- SSH を使用して、Cisco IPT Platform Administration CLI とのセキュア接続をクライアントワークステーションから確立します。

始める前に

Cisco IPT Platform が、次の情報が設定された状態でインストールされていることを確認します。

- プライマリの IP アドレスとホスト名
- 管理者 ID
- パスワード

これらの情報は、Cisco IPT Platform Administration CLI にログインするために必要になります。

CLI セッションを開始するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 次のいずれかのオプションを使用して、CLI に接続します。

- リモートシステムから、SSH を使用して Cisco IPT Platform Administration CLI にセキュアに接続します。SSH クライアントで、次のように入力します。

`ssh adminname@hostname`

`adminname` には管理者 ID を入力し、`hostname` にはインストール中に定義したホスト名を入力します。

たとえば、`ssh admin@ipt-1` と入力します。

- 直接接続から、次のプロンプトが自動的に表示されます。

```
ipt-1 login:
```

`ipt-1` は、システムのホスト名を表しています。

インストール中に定義した管理者 ID を入力します。

ステップ 2 パスワードを入力します。

CLI プロンプトが表示されます。プロンプトには、次の例のように管理者 ID が含まれます。

```
admin:
```

CLI コマンドを入力できます。

関連項目

[CLI の基本](#)

[CLI セッションの終了](#)

CLI の基本

この項では、コマンドライン インターフェイスを使用するための基本的なヒントを示します。

コマンドの補完

コマンドを補完するには、**Tab** キーを使用します。

- コマンドの開始部分を入力し、**Tab** キーを押すと、コマンドが補完されます。たとえば、**se** と入力し、**Tab** キーを押すと、**set** が補完されます。
- メニュー コマンドを入力し、**Tab** キーを押すと、このメニューで使用できるすべてのコマンドまたはメニュー コマンドが表示されます。たとえば、**set** を入力し、**Tab** キーを押すと、すべての **set** メニュー コマンドが表示されます。アスタリスク (*) は、メニューであることを示します。
- コマンドに達してから **Tab** キーを押し続けると、現在のコマンドラインが繰り返されます。さらなる拡張はありません。

コマンドのヘルプの取得

任意のコマンドのヘルプを、次の 2 種類の形式で取得できます。

- 詳細なヘルプ。これには、コマンドの定義と使用例が含まれています。
- 簡易クエリー ヘルプ。これには、コマンド構文だけが含まれています。

CLI プロンプトから詳細なヘルプを取得するには、次のように入力します。

```
help <command>
```

<command> には、コマンド名またはメニュー コマンドとパラメータを入力します。例 6-1 を参照してください。

CLI プロンプトからコマンド構文情報を取得するには、次のように入力します。

```
<command> ?
```

<command> には、コマンド名またはメニュー コマンドとパラメータを入力します。例 6-2 を参照してください。



(注) メニュー コマンドの後に疑問符 (?) を入力すると、Tab キーを押した場合と同じ結果が得られます。コマンド補完候補がリストされます。

次の例は、ヘルプ コマンドの一般的な使用方法を示しています。

例 6-1 詳細なヘルプの例

```
admin: help ping
```

```
This will send one or more ping packets to a remote destination
```

```
Example:
```

```
admin:ping www.cisco.com 5
```

```
PING www.cisco.com (198.133.219.25) from 172.22.119.166 : 56(84) bytes of data.
```

```
64 bytes from 198.133.219.25: icmp_seq=1 ttl=246 time=0.837 ms
```

```
64 bytes from 198.133.219.25: icmp_seq=2 ttl=246 time=0.962 ms
```

```
64 bytes from 198.133.219.25: icmp_seq=3 ttl=246 time=1.04 ms
```

```
64 bytes from 198.133.219.25: icmp_seq=4 ttl=246 time=0.635 ms
```

```
64 bytes from 198.133.219.25: icmp_seq=5 ttl=246 time=0.666 ms
```

例 6-2 クエリーの例

```
ping?
```

```
Syntax:
```

```
ping dest [count]
```

```
dest mandatory dotted IP or host name
```

```
count optional count value (default is 4)
```

CLI セッションの終了

CLI セッションを終了するには、CLI プロンプトで **quit** を入力します。システムは、次のいずれかの方法で応答します。

- リモートでログインしている場合は、ログオフすると、SSH セッションが切断されます。
- ローカルでログインしている場合は、ログオフすると、次の例のようにログイン プロンプトに戻ります。

```
login:
```

Cisco IPT Platform CLI コマンド リスト

表 6-7 に、Cisco IPT Platform Administration CLI で使用できるコマンドの説明を示します。

**注意**

一部のコマンドは、使用することでコール処理が遅くなる場合があります。詳細については、表 6-7 の注釈を参照してください。

表 6-7 CLI コマンドの説明

コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
ping dest [count]	指定した宛先に対して ping コマンドを実行します。 <i>dest</i> (必須): 宛先、ipV4 またはドメイン名。 <i>count</i> (オプション): 実行する PING の数。	Utilities > Ping

表 6-7 CLI コマンドの説明 (続き)

コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
file list	<p>ディレクトリ内のログ ファイルをリストします。</p> <p>ソート修飾子 :</p> <p>デフォルト dir (名前) とファイル (名前)</p> <p>d 日付(要求した場合は、サイズが無効になります)</p> <p>s サイズ</p> <p>r すべてのソートの反転</p> <p>表示修飾子 :</p> <p>デフォルトファイルのみ、2 列</p> <p>l 日付とサイズが含まれた長いリスト</p> <p>file-spec : ワイルドカード指定</p> <p>ファイル名では、上記の修飾子を使用した通常のリストが生成されます。</p> <p>ディレクトリでは、ディレクトリのフルパスを表示するリストが生成されます。</p> <p>構文 :</p> <p>file list activelog [-options] [file-spec]</p> <p> inactivelog [-options] [file-spec]</p> <p> install [-options] [file-spec]</p> <p>options オプション -tsrl</p> <p>file-spec オプション 表示するファイル</p>	-

表 6-7 CLI コマンドの説明（続き）


コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
file view	<p>ログ ファイルを表示します。</p> <p>ソート修飾子：</p> <p>デフォルト dir（名前）とファイル（名前）</p> <p>d 日付(要求した場合は、サイズが無効になります)</p> <p>s サイズ</p> <p>r すべてのソートの反転</p> <p>表示修飾子：</p> <p>デフォルトファイルのみ、2 列</p> <p>l 日付とサイズが含まれた長いリスト</p> <p>file-spec : ワイルドカード指定</p> <p>ファイル名では、上記の修飾子を使用した通常のリストが生成されます。</p> <p>ディレクトリでは、ディレクトリのフル パスを表示するリストが生成されます。</p> <p>構文：</p> <p>file view activelog [file-spec]</p> <p> inactivelog [file-spec]</p> <p> install [file-spec]</p> <p>file-spec オプション 表示するファイル</p> <p> (注) file-spec のワイルドカード指定は可能ですが、単一のファイルに解決される必要があります。</p>	

表 6-7 CLI コマンドの説明 (続き)


コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
set ip	<p>インストール時に設定されたネットワーク設定の次の要素を設定または変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DHCP のオンまたはオフ • 新しい IP アドレスおよび IP マスクの設定 • 新しいゲートウェイ アドレスの設定 <p>構文:</p> <p>set dhcp iface op</p> <p>iface (必須): インターフェイス名 {eth0 eth1}</p> <p>op (必須): 演算 {yes no}</p> <p>例:</p> <pre>set dhcp eth0 on</pre> <p>set ip iface addr mask</p> <p>iface (必須): インターフェイス名 {eth0 eth1}</p> <p>addr (必須): 割り当てる IP アドレス</p> <p>mask (必須): 割り当てる IP マスク</p> <p>例:</p> <pre>set ip eth0 10.10.140.8 255.255.255.0</pre> <p>set gw addr</p> <p>addr (必須): 割り当てる IP アドレス</p> <p>例:</p> <pre>set gw 10.107.140.1</pre> <p> (注) set ip コマンドでは、システムが強制的にリブートされるので、注意して使用してください。このコマンドを実行する前に、確認を求める警告が表示されません。</p>	Settings > IP Settings

表 6-7 CLI コマンドの説明 (続き)


コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
set password admin	<p>インストール中に設定された管理者アカウント(デフォルトで唯一のアカウント)のパスワードを変更します。</p> <p>新しいパスワードの入力と確認を求められます。</p>	-
set security orgunit orgname locality state country	<p>このマシン上の Tomcat のセキュリティ証明書とキーを作成します。Cisco IPT プラットフォームへのブラウザ アクセスで http の代わりにセキュアな https プロトコルが使用されるように設定してある場合は、このセキュリティ キーが使用されます。</p> <p> (注) このコマンドは、https をサポートしていない Cisco IPT Platform には適用されません。</p> <p>元のキーに障害がある場合、または証明書が有効期限切れになった場合は、set security コマンドを使用します。新しいキーの作成後、そのキーを表示するには、show security を使用します。</p> <p>パラメータ間にはスペースを入力します。</p> <p>orgunit (必須): 組織ユニット</p> <p>orgname (必須): 組織名</p> <p>locality (必須): 場所</p> <p>state (必須): 州</p> <p>country (必須): 国 (英字 2 文字)</p> <p>例:</p> <pre>admin:set security mydept mycorp SanJose CA US Successful in generating self signed certificate for unitname tomcat Successfully generated self signed certificate for tomcat</pre>	-


表 6-7 CLI コマンドの説明 (続き)

コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
service list service start [service name] service stop [service name]	サービスをリスト、開始、または停止します。	-
show files install [filename]	インストール ログ ファイルのリストを表示します。 <i>filename</i> (任意): 表示するファイルの名前	Cisco IPT Platform Administration で、Collect Diagnostics コマンドを使用して診断ファイルを収集します。
show hw	ハードウェア プラットフォームとシリアル番号を表示します。	Show Status > Hardware
show security	Tomcat セキュリティ キーおよび証明書情報を表示します。 Cisco IPT プラットフォームへのブラウザ アクセスで http の代わりにセキュアな https プロトコルが使用されるように設定してある場合は、このセキュリティ キーが使用されます。	-

表 6-7 CLI コマンドの説明 (続き)

コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
show status	<p>次のプロパティの動的ステータスを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Host name • Date • Time Zone • Primary DNS • Secondary DNS • Domain • Gateway • イーサネット 0 およびイーサネット 1 : <ul style="list-style-type: none"> - DHCP (yes または no) - インターフェイスのステータス - IP Address - IP Mask • リソース : <ul style="list-style-type: none"> - Memory : Total、Free、Used - CPU (%): Idle、System、User - Disk Usage : パーティション / から得られる Disk/active、パーティション /partB から得られる Disk/inactive、パーティション /common から得られる Disk/logging 	Show Status > Platform Status
show trace	トレース情報を表示します。	
show version active show version inactive	アクティブまたは非アクティブな Cisco IPT Platform Administration ソフトウェア バージョンを表示します。	-

表 6-7 CLI コマンドの説明 (続き)

コマンド	説明	Cisco IPT Platform Administration での対応操作
system [parameter]	<p>パラメータでの指定に応じて、再起動、バージョンの切り替え、サーバの再起動またはシャットダウンを実行します。</p> <p>system restart : 現在のバージョンを再起動します。</p> <p>system switch-ver : バージョンを切り替えて再起動します。</p> <p>system poweroff : グレースフルにシャットダウンします。</p> <p> (注) このコマンドを実行する前に、確認を求める警告が表示されます。</p>	<p>System Poweroff or Reboot > Reboot Current Version</p> <p>System Poweroff or Reboot > Switch Versions and Reboot</p> <p>System Poweroff or Reboot > Poweroff System</p>
traceroute dest [ethX]	<p>traceroute コマンドを実行し、宛先までのパケットの経路をトレースします。ホスト間のルーティング問題をデバッグするために、次のように使用します。</p> <p>dest (必須): 宛先、ipV4 またはドメイン名</p> <p>ethX(オプション): 発信元イーサネット インターフェイス、eth0 または eth1</p>	-



INDEX

A

Active Directory 3-14

AXL サーバ 3-10

C

Cisco CallManager

AXL サーバ 3-10

Cisco MobilityManager との連動 1-3

互換性の例外 1-8

必須の手順 2-4

リンクの設定 2-4

Cisco MobilityManager

URL 2-2

アクセス 2-2

主な機能 1-4

概要 1-3

既存の携帯電話 1-3

機能とメリット 1-4

互換性 1-8

使用例 1-6

ソリューションのコンポーネント 1-3

追加情報 1-13

メリット 1-4

Cisco MobilityManager アドミニストレーション ガイ

ド

関連マニュアル xi

表記法 xii

マニュアルの構成 x

目的 x

Cisco MobilityManager の再起動 3-2

CLI

概要 6-18

基本、ヒント 6-21

コマンドリスト 6-18

コマンドの説明 6-23

コマンドの補完 6-21

セッションの開始 6-19

セッションの終了 6-22

接続のオプション 6-20

ヘルプの取得 6-21

CTI ポート 2-4

CTI ユーザ 2-4

F

FAC/CMC 1-8

I

Internet Explorer 1-10

IPT プラットフォームの管理 6-1

J

JTAPI

FAC/CMC 1-8

設定 3-7

M

MLPP 1-8

Mobile Connect 2-13

サービス 4-8

サービスのステータスの表示 4-8

設定の表 2-22

定義 1-2

パラメータ 3-4

Mobile Voice Access

概要 2-14

設定 3-9

定義 1-2

N

Netscape 1-12

Netscape directory 3-14

NTP 6-8

P

PING 6-11

R

Reboot Current Version 6-17

S

Show Current Version 6-14

SNMP 3-2

SSH 6-19

Switch Versions and Reboot 6-16

W

Web ブラウザ 1-9

あ

アップデート

グループ 2-26

ライン アピアランス 2-27

リモート宛先 2-29

アラーム

エクスポート 5-2

タイプ 4-3

表示 4-2

え

エクスポート

アラーム 5-2

呼詳細レコード 5-4

測定情報 5-3

か

管理アプリケーション

Web インターフェイス 1-9

アクセス 2-2

ナビゲート 2-2

パスワード 2-3

関連マニュアル xi

き

共用回線ユーザ リンク

検索 2-6

削除 2-8

追加 2-5

共用回線ユーザ 2-5

く

グループ

アップデート 2-26

削除 2-27

追加 2-17

定義 1-2

け

携帯電話タイマーの設定 2-23, 3-6

携帯電話ピックアップの設定 3-5

検索

共用回線ユーザ リンク 2-6

発信ポート ユーザ リンク 2-10

ユーザ アカウント 2-16

こ

コーリング サーチ スペース 2-4

互換性 1-8

互換性の例外 1-8

呼詳細レコードのエクスポート 5-4

さ

サービサビリティ

アラーム 4-2

測定情報 4-4

削除

共用回線ユーザ リンク 2-8

グループ 2-27

発信ポート ユーザ リンク 2-12

ユーザ アカウント 2-25

ライン アピアランス 2-28

リモート宛先 2-30

サポート対象のブラウザ 1-9

し

システムの電源オフまたはリポート 6-16

システムのリポート 6-16

システム パラメータ

AXL サーバ 3-10

JTAPI 3-7

Mobile Connect 3-4

Mobile Voice Access 3-9

携帯電話タイマー 3-6

携帯電話ピックアップ 3-5

設定 3-2

- デフォルト 3-2
- ユーザ個別の 3-2
- 使用上の制限事項 1-6
- 使用する前に 2-1
- 使用例 1-6

- す
- ステータス 4-8

- せ
- セキュリティとプライバシー 1-5

- そ
- 測定情報
 - エクスポート 5-3
 - カテゴリ 4-5
 - 表示 4-4
- ソフトウェア
 - コンポーネント バージョン 6-15
 - バージョン 6-14
- ソフトウェアのアップグレード
 - From Local Source 6-12
 - From Remote Source 6-13

- つ
- 追加
 - グループ 2-17
 - 発信ポート ユーザ リンク 2-9
 - ユーザ アカウント 2-14

- ライン アピアランス 2-18
- リモート宛先 2-20

- て
- 定義 1-2
- ディレクトリ ユーザの設定 3-14
- データ同期 3-12
- データベースのバックアップと復元 3-13
- 電源オフ 6-17

- と
- 同期、データの 3-12

- に
- 認証局 2-2

- は
- パーティション 2-4
- パスワード 2-3
- バックアップと復元、データベースの 3-13
- 発信者番号 1-2
- 発信ポート ユーザ リンク
 - 検索 2-10
 - 削除 2-12
 - 追加 2-9
- パラメータ 2-13
 - AXL サーバ 3-10
 - JTAPI 3-7
 - Mobile Connect 3-4

- Mobile Voice Access 3-9
 - 携帯電話タイマー 3-6
 - 携帯電話ピックアップ 3-5
 - システム レベル 2-13
 - システムの設定 3-2
 - デフォルト 3-2
 - ユーザ個別 2-13
- ふ
- ブラウザ、サポート対象 1-9
 - プラットフォームの管理
 - IP の設定 6-6
 - NTP の設定 6-8
 - PING 6-11
 - Settings 6-6
 - Show Status 6-3
 - Web ページ 6-2
 - ソフトウェアのアップグレード 6-11
 - ハードウェア ステータス 6-5
 - プラットフォーム ステータス 6-4
 - ホストの設定 6-7
- ま
- マニュアル
 - 表記法 xii
 - マニュアルの構成 x
 - 目的 x
 - マニュアル、関連 xi
- ゆ
- ユーザ アカウント
 - アップデート 2-24
 - グループ 2-13
 - 検索 2-16
 - 削除 2-25
 - 追加 2-14
 - ユーザ アカウントのアップデート 2-24
 - ユーザ プロファイル 1-2
- ら
- ライン アピアランス
 - アップデート 2-27
 - 削除 2-28
 - 追加 2-18
 - 定義 1-2
 - ユーザ アカウント内 2-13
- り
- リモート宛先
 - アップデート 2-29
 - 削除 2-30
 - 追加 2-20
 - 定義 1-2
 - ユーザ アカウント内 2-13
- る
- ルート ポイント 2-4

ろ

ロギング

レベル 4-7

レベルの設定 4-7

ログ ファイルのエクスポート

エクスポート

ログ ファイル 5-5

ログイン

Cisco MobilityManager 管理 2-2

プラットフォームの管理 6-3